8020 推進財団助成事業
住民参加型歯科保健推進モデル事業
2006 年度（平成 18 年度） 事業報告書

平成 18 年度
は～もに～プロジェクト　事業報告書

は～もに～ぷろじぇくと

Dentistry medical treatment workshop
IN NIIGATA

はーもにープロジェクト実行委員会
特定非営利活動法人まちづくり学校

目　次

1章　18年度事業の進め方等・・・・・・・・・・・・・・・1
1．事業推進の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2．18年度事業の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・1
3．検討経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
4．18年度実施事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・2
（各回実行委員会の検討記録（FG模造紙）・・・・・3

2章　実施事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
1．NSGコミュニケーションスキルアップ授業・・・・・15
2．お口から健康を考えるワークショップ
～市民と歯医者さんとの意見交換会2007～　・・・21
3．3年間の活動成果のとりまとめ・・・・・・・・・・・32

1章　18年度事業の進め方等

1. 事業推進の基本方針

1）推進体制

○本事業は、平成１５～１７年度に８０２０推進財団からの助成を受けて実施した「住民参加型成人歯科保健推進モデル事業」の続編である。

○推進にあたっては、過去２カ年と同様に新潟県歯科医師会、新潟市歯科医師会、新潟青年会議所、新潟大学歯学部、NPO 法人まちづくり学校、長峰自治会の関係者によって構成された「は～もに～プロジェクト実行委員会」を組織し、事業の企画立案・実施を行った。

2）推進にあたっての基本的な考え方

○本事業は、「歩きながら考える」を基本とし、様々な実験プロジェクトを実施（アクションリサーチ）しながら、、その都度計画を修正して進めていくことを基本としている。

2. 18年度事業の方向性

1）３年間の活動成果のとりまとめ及び情報発信ツールの作成

○本事業の取り組み内容を広く情報発信していくために、事業開始に至るまでの経緯及び平成１５～１７年度に実施した事業の詳細をまとめ、書籍化に向けた原稿作成を行う。

2）これまでに実施してきた事業の継続・定着化

○これまでに実施してきた各事業について、引き続き継続実施していく。

○また、事業の定着化に向けた関係機関との協議も併行して展開していく。

3）新たな事業の展開

○より一層、地域歯科保健活動を推進していくために、新たな連携先を開拓し、新規事業を立ち上げていく。

3. 検討経緯

○本年度は、実行委員会を計７回開催した。なお、日常的な連絡調整・意見交換等はメーリングリスト通じて行った。

第1回	９月８日（金）１９：３０～２１：００ ・今年度の進め方
第2回	10月18日（水）１９：３０～２１：００ ・今年度実施予定プロジェクトの進捗状況の報告、内容検討
第3回	11月29日（水）１９：３０～２１：００ ・各プロジェクトの進捗状況の報告
第4回	12月22日（金）１９：３０～２１：００ ・各プロジェクトの進捗状況の報告
第5回	1月24日（水）１９：３０～２１：００ ・各プロジェクトの進行状況の報告、内容検討
第6回	２月28日（水）１９：３０～２１：００ ・各プロジェクトの進行状況の報告、内容検討
第7回	３月29日（木）１９：３０～２１：００ ・各プロジェクトの進行状況の報告、内容検討

4. 18年度実施事業の概要

1）3年間の活動成果のとりまとめ及び情報発信ツールの作成

●成果記録集の出版に向けた準備作業(新規)

・新潟で展開してきた地域歯科保健事業の成果を、広く情報発信していくために、成果のとりまとめ及び出版に向けた準備作業を行う。

⇒本年度は出版に向けた原稿執筆及び出版社との調整を実施。
⇒次年度に新潟日報事業社より出版することが決定した。
⇒本年度に執筆した原稿は、2章3に掲載。

2）企業との連携事業

●NSGとの連携事業(継続)

・NSGグループの専門学校等と連携を模索し、新たな歯科保健教育プログラムを検討する。

⇒前年度に引き続き、新潟国際医療カレッジにて、特別講義を実施。
⇒次年度以降、正規カリキュラムに組み込んでもらうよう協議したが、残念ながら先送りとなった。
⇒本年度の実施内容は、2章1に掲載。

●北越製紙との連携による歯科保健活動(継続)

・新潟市内の企業の協力を得て、従業員の成人歯科保健に取り組んでいくための活動を実験的に実施する。

⇒北越製紙側の都合により、本年度の連携事業は休止となった。

3）他組織との連携事業

●JCメンバー健診(実験実施)&意見交換会の実施(継続)

・成人歯科健診の受診率向上の一方策として、歯科健診を受診する一つのきっかけを提供する。

⇒JC側の都合により、本年度の連携事業は休止となった。

●新潟県障害者交流センターとの連携事業(新規)

・新潟県障害者交流センターと連携し、亀田駅東口周辺の地域も巻き込んだ、地域歯科保健活動の新たな展開を模索する。

⇒新潟県障害者交流センターにて、地元住民との意見交換会を実施。
⇒実施内容は、2章2に掲載。

4年目 はーもにープロジェクト打合せ

2006.9.8
歯学部2下
No.1

8020財団

中核
協働で行う
歯科保健
（こうなっていくだろう。）

↑

はーもにープロジェクト

近い活動をしている仲間 → 集まる

全国的な横の連携
交流

これまで
歯科医師会中心

これから
様々な関係で
歯科保健を
考えていく

ファシリテーター養成

実行委員会

新しいメンバー
↓
企画から Projectへ参加してほしい。

実験プロジェクト

口腔ケアで健診

新規事業は
やっぱり実験は必要

福祉ゾーン

亀田エリア
郷 亀田駅
「やるよ」
大江山のような
取り組み
できないか。

小児～高齢者

- 障害者交流センター
  プール、レストラン、研修会場
- 亀田公園（バーベキューetc）
- 中央児童相談所
- 授産施設

からめられるか？

桜の時
まつりがある
（子供の日など）
公募あり？
食の●陣
みたいなことをしては？
障害者と健常者

生活習慣病

食育

メタボリックシンドローム

口腔

・JC 自分で
・北越製紙
へと今年よくリ？

原点回帰して

歯科と食育

（口腔）

噛むこと
栄養
歯科だけじゃない視点で取り組む

市に独立した課がある？

大江山小学校

食育にとりくんでいる

大江山地区

目的は
保育所の
〝循環衛生指導〟
でなくなっちゃう。

衛生指導と

- 西野地区
- 北山地区
  もうすぐ

住民とお茶会的な（風向き）
＋
市職員と保健士など

専門家から話をきく。

2006.9.8
歯学部2F
No.2

3年間の取組み きちんとまとめる

参加者インタビュー

HPのからきく お金あつめの技

原案 高橋ら

情報受発信ツール
冊子をつくる
HP

ex. 販売のための出版の助成金
（原稿さえあればOK）
・トヨタ財団11月募集

ファシリテーター研修

次につなげていく工夫も必要
実践の場

やりっぱなしになっているのかも…

888888

どこにいくのか
どこに向かっているのか

個人のプロジェクト

どう展開していくか

行政
パートナーシップ
連携のしくみをつくっていく

歯科医師会

地域的な温度差…

"8020"周知 → あきらめてきてる？

Next 8020
緊急の課題

原点 健康と口腔

- おいしく食べる
- 美しく笑う

おいしくたべるとは何か 河内さくらさん

笑顔の健康 NAMARAの ○○さん

(有)食育弁当のお店 菅原先生

結集会議

次回「情報受発信ツール」
- コンテンツ整理 etc.

10月18日(水)19:30～

高橋さんら 歯科チームが原案をつくる

亀田のこと → 佐藤先生が調査

はーもにープロジェクト打合せ

・冊子について
・亀田ごのとりくみ
・HSG

2006.10.18 ⑪
in 歯学部2F

3年間のとりまとめ

冊子づくりについて。

1章 はーもにープロジェクトがなぜはじまったか

1章まるまるつかっても

きっかけとなった事

どこにひびいたのか

干潟状態から！

とまどい

計画づくりのWS
組み立て、プロセス

導入部に住民参加型とは何ぞや

住民参加だけど

住民に期待するだけじゃない！

歯科医師も参加

やるべし精神

歯科医師なんかやろうよ！

必要そうな予感…

2章 歯科医師とファシリテーターが出会った

自分自身のスキルUPにもつとめた。

はじめに ◎導入
1章 ◎きっかけ、活動の流れ 気もちの流れ
2章 ◎スキルUP
3章 ◎事例（各プロジェクト）

課題

活かしてきて見えてきたもの

新潟以外の取りくみの紹介

（他県）

できればどなたかにかいてもらう。

8020財団 来年度

地域歯科保健を住民参加で！

新潟 静岡 愛知 岩手

来年度の助成金

トヨタ財団助成金
11/20 必着

上限100万円（半）
（7割 執筆者へ
3割 買いとり補助）
ただし、

出版社への助成

◎学芸出版
◎新潟日報

まちづくり系よくだしてる

章立て
＋
◎3年分のまとめ
◎写真もって

→ 鼓先生が打診

2006.10.18 ②

亀田

県障害者交流センター
(ふれあいプラザ)
運営…民間に委託

とくださん
(元.白岩の里所長)

女田さん
統括部長

(社)新潟県
身体障害者
連合協議会
[指定管理者]

新潟市
食育担当の方
→興味もってくれた。
次回以降、参加してくれそう。

2006.10.18 ②
亀田郷2F

目指す所

福祉ゾーン

地域との
ふれあい
目的がつながる

はーもにー実行委員に
なってくれる。

大江山
大淵小学校
(地産地消)
来週文化祭
(「食育」のこともやる)

児童相談所
作業所
ディサービス
…

障害
身体障害

口腔福祉学科
の学生も手伝ってくれる?

人手として

市広報との協働

NSGやる

やり方をどうするか?

歯科の
カルタ
全国公募
で賞品つける

マスコミと連携

NSGの学生にマンガかいてもらう。

打上げ花火

① イベント的なことはできそう。
- 研修会室
- エントランス

(まわりの地域と連携して)

子どもとからめる?

障害のある子どもと食育を?

どんな企画にするか!

次回までに
「2.3案を作る」

② 歯科医師 ⇔ 障害者

本業のかも

期待されているかも。

- 歯科健診
- 歯科指導

ターゲット
子ども

対象はしぼってよいだろう!

NSG
はーもにーとして提供できる事。

継続するのかどうなのか、

白紙の所から
話し合っていっては?
↓
岡田先生、小林さん

歯がないなら、もたってもたれって。

センター(手話) → 歯科研修 提供

はーもにープロジェクト実行委員会

'06.11.29
歯学部2年

- 本について
- 亀田でのイベント
- JC
- NSGの講座
- 大江山のこと

本
- 見込み来年度内に出版
- 毎月1度ペースで原稿がはじめられれば2月末まで
- 障害者交流センター 丸田さん
- Bちいず 2000部
  - 1500 定価の8割で買いとり
  - 500 日報が書店に流通
- 1冊の値段交渉中
- 校正（日報事業社）
- この頃には、コク財団助成の締め来る。

おねがいしてみる 12月の頭

80の財団 訪ねて歩く

レイアウト
↓
出版
（2006年度）

早急におしらせ！原稿依頼
- 依頼する部分
- 字数
- データで下さい。

来週の水よう日 8020財団の地域保健委員会 はーもにー活動の概略説明 佐藤先生

1月には小西さんも参加

8020財団本体の事業化を検討

歯科保健を推進するための手法？新しい何か…？プログラム？ ファシリテーター研修

口腔ケア

障害者交流センターでの活動

Point! 障害者の方 地域の方が 関われるように

一緒に参加

リクリエーション 競技大会のような形で

今年度内 プレイベント

ホールで？

緑まつり

ボランティア亀田 会って 話をしよう！

地域住民 とつながって。

地域の食

斉藤さんから連絡

JCの競技大会

打ち切りたい。 → また来年

NSG コミュニケーション スキルアップ事業

'06.11.29 歯学部2F

昨年20回のプログラム → 1日でやろう！ 参加者20名

12月22日(金) 9:40～15:20

講師：岡田、桑原、＋α

（小林世、小見、阿部 斉藤 午前のみ）

いろはカルタ

NSGマンガアニメ専門学校山田さん

おもしろい！ 力になれるかも！

来年度事業に → 企画書をつめていく！

大三山について

12月 グループディスカッション

関心度 歯科についての興味をどる 地域性

小学生の親 おばあちゃん おじいちゃん

学校での口腔指導 有無 意識の向上

はーもにープロジェクト 2006.12.22 ①

- NSGについて報告
  - コミュニケーション能力のスキルUP
  - 来年度以降についてはまた相談
- 亀田
  - 3/25(日) 障害者交流センター
  - 地域の人といっしょになった意見交換の場
  - 繰(まとう)さん「ボランティア亀田」
  - 関心の薄い人たち
  - 若い世代…子どもをもつお母さん
  - をまずターゲットに!!
  - ファシリテーター研修を受けた方が必要

4/15 桜まつり

まずやってみる…… つながれば

あまり手を広げすぎない。

…保育士さんに子どもを見てもらう?

■冊子



はーもにープロジェクトについて(仮)

8020財団 ……… 歯科医師会

■ファシリテーター研修会

来年度2~3回開催
全国の歯科医師会を対象に

プライマリー学会

＝

まちづくりの精神

共通する所あり!!

■歯科いろはがるた
公募… 当選者

家族で楽しめるものを!!

歯科医が自宅にとどける。

予算は?

印刷・広告・印さつ

企画書

次回までに…

スポンサー探し、
歯科医師会 など

はーもにープロジェクト

2007.1.24.
歯学部小会議室

- 冊子について  座談会を3月以降に予定
  原こう締め切り2月末!!

- 亀田
  3/1 亀田支所だより
  体験の中身 ← ちらし
  地域に開放 ← きちんとPR
  場所

ボランティアだより
市 8,000
かめだ 200

どのくらいまわせるか
…予算
79万8千円

- けいひんは?
- がん
- 口臭測定
- 歯周病
- 咬む力測定
- 写真 ・唾液
- 器具の展示、パネル
- はみがき指導 etc…

障害者の歯を守る会
新大、日歯の麻酔科
小児科
明倫

歯科はけん協会
行政

参加→意見交かん会

・さくらまつり　4/15

地域交流センター（仮）で実施

市が設営 → テントを1ブース確保!!

亀田公園付近

・大江山

保育園で
はみがき指導

2月の会議で
今後の方向づけ

来年度

・NSG　20人

予算＝5万円，年1回，開さい時期は2006年度よりはやく。

前回 9:30～15:30

学生の反応をもっと分析し来年度にいかす。

・かるた

子育ていろはがるた。
性差を学ぶ親子がるた。

いろはがるた
ワークショップ

予算

PR方法 ①商品化の前にインターネットでダウンロード
②実際商品化…数は？

はもにープロジェクト 実行委員会

8020財団 ノウハウを全国に普及したい

07.2.28 歯学部2F

活動のまとめ

連休あけ？ 財団

5日 WS形式

〈何かをやりたい〉

地域担当をあつめ（全国）

岡橋さん宛て ← データ（原稿）

岡田先生（3/11）

1章 藤原先生

2章 まちづくり

3C 桑原（CD）

食の陣 茗井（明日3/1 データで）

NSG 岡田（明日3/1）

まなびや 濱野（OK）

自治会 長谷川（あとで）

県外 池主任（確認中）

地域へのはたらきかけ 藤原先生（とどいた）

めざしているもの 佐藤先生

おわりに 池主任（OK）

岡橋さん宛て → 佐藤さん へ

データ 写真

期待すること

↳次回、座談会を行う。

3月中に、某々、編集を行う〈報告書〉

3/25イベント

30名くらいのスペース（会場）

競技接会

◎体験コーナー
- そしゃくがム
- だ液（なみだ）
- 写真（口の中）

6.10.16円

予防歯科から5名スタッフ

◎競技接会 5〜6G（6人〜）

ファリーク研修修了生の方 スタッフ5,6名

いろはカルタ

スポンサー（¥）

↳。紙だけなら北越製紙？

- 口腔保健協会 ↳歯科関係の学会事に何もたくさんやってる
- ロッテ
- リンスター
- ライオン

広報

◎日報クルハ"コーナー

はもにープロジェクト期待する

次回は、29日(木) 座談会＆実行委員会

はもにープロジェクト実行委員会 '07.3.29 集まり

3/25 亀田ふれあいプラザ お口から健康を考えるワークショップ

- 思ったより一般参加者が少なかった
  - いろいろ重なったためかも。
    - 当日、福中の地震、
    - 梅まつり、などのイベント
- 人集めは大変っ
- 歯科関係者が多かった。
  - 亀田の方々
  - "だけど、普段話せないような方々とも話せて勉強になりよかった!"
- 体験コーナー参加してくれた人はたのしんでくれた。
  - 障害者のフォト大会があり、そこに来ていた方がたくさん参加していた。

WS
- 2Gにわかれ、意見交換を行った。

4/15 亀田公園エリアで、さくらまつり

- まつりは、9:30~15:00（ごろ）
- 人の陣とき、食の陣みたいなイメージ
- テントをはる。（1つ分）
- 何をするか？
  - ◇アンケート → 中身は検討（シール投票で）（予防歯科）
  - ◇パネル展示 → これまで作ったパネルをもっていく。
  - ◇体験コーナー（近藤先生） → 噛むカチェック のガム 口臭チェック
  - ◇8020クイズ（予防歯科チーム）
  - ◇お土産 → はぶらし（さとう先生）
  - ◇お口の健康相談（いろんで）
- イス、テーブル、電源、テント → 丸田さんに頼んである。
- 書きたい事もきて！
- お茶会やフリマやって
- のぼり（はもにーモニター）
- プレ募集 1/15はカルタ（まち学校）

コミュニティ協議会での事業
- 亀田まつり
- 学校 ⇔ 学校歯科医
- 横のつながり
- 連携してイベントを。
  - 明日の朝いちにまとうさんにFAXざっとした企画内容とはこんなイベントだけは行っておく ※北部おれんじの人へ よろしくねっ

斉藤 慎 阿部
佐藤 国向 豪原 小里 国田 澤野 高橋 酒原 近藤 岩崎 北沢 金子（15人）

1. NSG コミュニケーションスキルアップ授業

日時：平成 18 年 12 月 22 日（金）9：00 ～ 15：40
会場：国際福祉医療カレッジ　こども福祉・医療秘書キャンパス

9：00
会場設営、打合せ

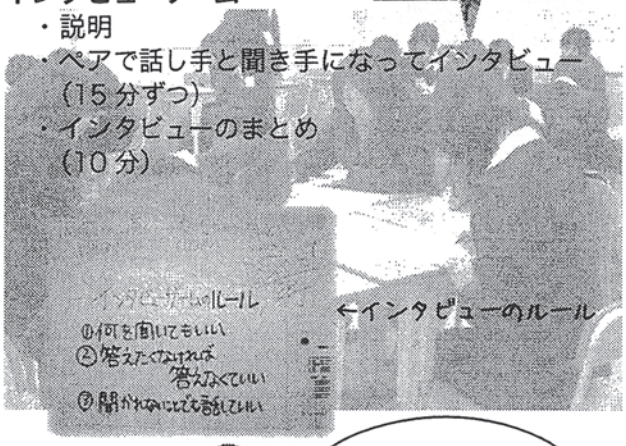
9：40
授業の目的について
「良好なコミュニケーションの重要性について
の理解を深め、その手法を実践的に学ぶ」
・コミュケーションの重要性について
（インタビューゲームで体験）
・協働作業を通じて全体と自分の関係を考える
・実践的体験（実践的受付体験ゲーム）
・意見交換

9：45
進め方について



9：50
ゆるやかな関係づくりゲーム

10：10
インタビューゲーム
・説明
・ペアで話し手と聞き手になってインタビュー
（15 分ずつ）
・インタビューのまとめ
（10 分）



←インタビューのルール



11：00
休憩

11：10
発表

11：40
伝言ゲーム
お題を「ジェスチャー→絵→手の平にかく→
口話→答え発表」の順に伝えるチーム戦。



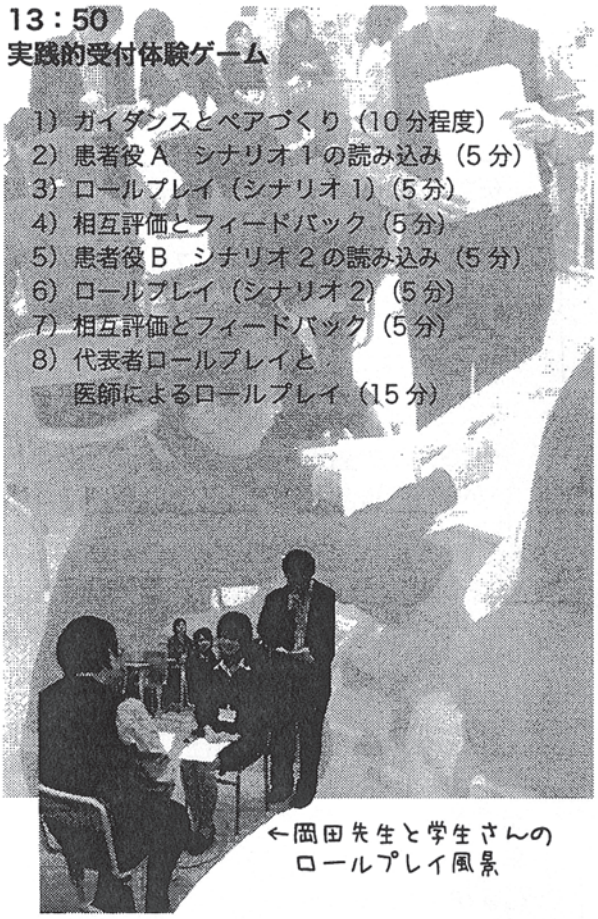
12：30
午前の部終了

13：30
午後の部開始

13：35
ゆるやかな関係づくり

13：50
実践的受付体験ゲーム

1）ガイダンスとペアづくり（10 分程度）
2）患者役 A　シナリオ 1 の読み込み（5 分）
3）ロールプレイ（シナリオ 1）（5 分）
4）相互評価とフィードバック（5 分）
5）患者役 B　シナリオ 2 の読み込み（5 分）
6）ロールプレイ（シナリオ 2）（5 分）
7）相互評価とフィードバック（5 分）
8）代表者ロールプレイと
医師によるロールプレイ（15 分）



←岡田先生と学生さんの
ロールプレイ風景

14：50
休憩

15：00
意見交換

15：15
ふりかえりシート



15：20
閉会

15：40
スタッフ反省会
ひと言ずつふりかえり

NSGコミュニケーションスキルアップ授業ふりかえりシート

2007年12月22日(金)国際医療福祉カレッ

●うれしかったこと・気がついたこと

- 皆の意外な一面を発見したこと
- みんなの新しい一面を知ることができてよかった
- クラスメイトの意外な一面を知ることができた
- 変わった自己紹介をして他人の違う一面がみれたこと
- インタビューで相手から聞いた事を短い文章にまとめるのは大変だったけど、相手が書いたのを見て自分がいつも自己紹介で言うこと以外が書かれていておもしろかったです
- インタビューが楽しかったし、個性が出て面白かった
- 原くんは彼女思いということ
- クラスの仲間みんなで何かをすることがあまりなかったのでコミュニケーションが久びさにみんなととれてたのしかった。
- 自己紹介も伝言ゲームもちょっと変わっていて楽しかった
- 伝言ゲームをしていて相手に自分の伝えたいことをわかってもらうのは難しいことだと気が付きました
- 伝言ゲームで上手く次の人に伝えられて楽しかったです。口話担当でしたが、ニ問目がなかなか伝わらなくて何回もやってわかってもらえてときがうれしかったです
- 伝言デームで自分のグループ皆に伝わって良かったです
- 伝言デームでうまく伝わったこと
- 伝言ゲームで上手く次の人に伝えられて楽しかったです
- 相手から話をききだすということが思っていたよりも難しかった
- 聴くことは心をそえてきくことが大事だということを学びました
- 患者さまの立場になっていろいろと質問して聞き出すということが大切だと思いました
- いかに患者様さまから多くの情報を聞き出すことが大切か。聞き上手！
- 実際に歯科医院の受付をアルバイトでやっていたので、その経験を少し生かすことができてよかったし、嬉しかった。でも、もっと情報を聞き出すことができたら良いなぁと思った。
- 実際に現場で受付をしている方と接し、受付での応対の仕方のアドバイス等をいただけて、よい経験になりました。
- 歯科の受付のやり方を少し学んだ

●これは実践できると思ったこと

- 飲み会などで伝言ゲームができそうだと思った
- 伝言ゲーム
- 伝言ゲームおもしろかった
- 伝言ゲームは難しかったけど、さまざまなコミュニケーション方法が含まれていて勉強になった
- 受付での応対(患者様がクレームを言ってきたら・・・落ち着いてあやまることが大切)
- 歯科医院での受付応対
- 歯科での受付応対では、学校でやっていることと違ってまよったけど、すごく役に立つと思った
- 受付応対は今まで学校でやってきたやり方とちがってとまどったけど、授業より実践に近くてよかったと思うし、実践にも有効かなと思いました
- ロールプレイングでの電話応対。将来働いていく上でも必要になっていくので・・・
- 実際に病院に働いている方からアドバイスをたくさんもらって、すごく勉強になり、この先就職したときにとても参考になると思いました
- 実際に病院に勤めるようになったとき、自分から質問していって患者様の不安や怒り等を解消していきたいと思いました
- 介護の事務員(受付)に就職が決まっているので、電話応対、受付の実践はとても勉強になりました。相手の気持ちになり、どうすることが最善か考え応対していきたいです
- 患者様からいろいろな情報を聞いたりとかいらだちをなだめたりする事って病院での受付でも必要なことだとおもった。患者さまの立場にたってどんなことを聞けば良いのか考えながら現場でやっていきたいと思った
- 受付役のときに患者様に気を悪くされないよう言葉を選んで患者様の話を聴くということは大切だと思ったし、実践したいです
- 受付のしかたで患者さんにいろいろ聞いて、その人の状態をわかること
- 聴くことの大切さを学んだ(聞き出すことの難しさ)

2006.12.7
医療福祉総合教育
第12号

感想

ちょっとはずかしかった

どんな風に表現されるんだろ～..

いつもは言わないことも表現

不思議な かんじ

いつもの自己紹介とはちがう！

意外！

相手 自分の 新しい一面をみれた

たのしかった

最後のほうはギリかた

何を聞いていいか..

難しかった

文章を短かくするのが..

もっといっぱい伝えたかった

初対面のほうが、やりやすかったかも

インタビューのポイント

座りかた、あいずち

- 話しやすい体制をとる
- 何を聞いたら答えやすいか考える

聞くことは相手に自分を伝えること

聴き

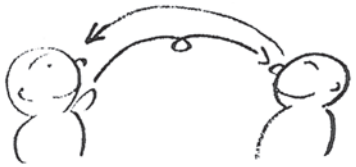
意見交換

06.12.22
in NSG フクオカ

コミュニケーション＝キャッチボール

相手の受けとりやすいボールをなげる

ドッチボールじゃないよ



受付の極意

伝える気持ち

- 相手の気持ちになって
- 心をこめて電話応対
- 冷静に答えられるよう知識も身につける
- 聴き上手になる

神様がのりうつったように

1.初めに流れを説明してほしかった

NSGコミュニケーションスキルアップ授業　進行表（1）

午前の部 進行表

日　　時：平成18年12月22日（金）　9：40～12：30

場　　所：古町7　NSGスクエア　7F

主　　催：はぐもにぐプロジェクト実行委員会

参加学生　　約20名

スタッフ：　【歯科医師会】　　岡田、小黒、桑原、プラス2名

　　【まちづくり学校】　　小畴、斉藤、長谷川、安田、小西、阿宮、小見

　　NSG担当：国際福祉医療カレッジ　こども福祉・医療秘書キャンパス　学科長　澤田　千賀子様

目　的：

良好なコミュニケーションの重要性についての理解を深め、その手法を実戦的に学ぶ

内　容：

1．コミュニケーションの重要性について　インタビューゲームで体験
2．協働作業を通じて全体と自分の関係を考える
3．実践的体験　　受け付け体験ゲーム
4．意見交換

タイムスケジュール　　全体進行　斉藤

9:00	会場設営　打合せ	全員
9:40	授業の目的について	歯科医師会
～ 9:45	進め方について	小畴
～ 9:50	ゆるやかな関係づくりゲーム	小西
～ 10:10	インタビューゲーム(15分、15分、10分)	長谷川
～ 10:50	休憩	
～ 11:00	発表	
～ 11:40	伝達ゲーム	安田、阿宮、小見
～ 12:30	午前の部終了	

チェックリスト

◇まちづくり学校

- □ 模造紙
- □ マーカー
- □ コピー用紙　A3　A4　A5
- □ サインペン
- □ ガムテープ
- □ 記録機材

◇歯科医師会

- □チャレンジ1．2
- □シナリオ1．2
- □受付対応のゴールデンルール

◇配布資料

□必要資料　　30部

NSGコミュニケーションスキルアップ授業　進行表（2）

午後の部 進行表

日　　時：平成18年12月22日（金）　13：30～15：20

場　　所：古町7　ＮＳＧスクエア　7Ｆ

主　　催：はぐもにぐプロジェクト実行委員会

参加学生　約２０名

スタッフ：【歯科医師会】　岡田、小黒、 桑原　プラス２名

【まちづくり学校】　小畷、長谷川、安田、小西、阿宮、小見

ＮＳＧ担当：国際福祉医療カレッジ　こども福祉・医療秘書キャンパス　学科長　澤田　千賀子様

目　的：

良好なコミュニケーションの重要性についての理解を深め、その手法を実戦的に学ぶ

内　容：

1．コミュニケーションの重要性について　インタビューゲームで体験
2．協働作業を通じて全体と自分の関係を考える
3．実践的体験　　受け付け体験ゲーム
4．意見交換

タイムスケジュール　　全体進行　小見

13:30	午後の部開始		
13:30	午後の部の進め方について		歯科医師会
～13:35	ゆるやかな関係づくりゲーム		安田、阿宮
～13:45	実践的受付体験ゲーム		歯科医師会　小西
	1）ガイダンスとペアづくり	１０分程度	
	2）患者役Ａ　シナリオ①の読み込み	5分	
	3）ロールプレイ（シナリオ①）	5分	
	4）相互評価とフィードバック	5分	
～	5）患者役Ｂ　シナリオ②の読み込み	5分	
	6）ロールプレイ（シナリオ②）	5分	
	7）相互評価とフィードバック	5分	
	8）代表者ロールプレイ（２組程度）と医師によるフィードバック	15分	
14:50	休憩		
～15:00	意見交換		長谷川　小畷　歯科医師会
～15:15	振り返りシート記入		長谷川
～15:20	閉会		歯科医師会

チェックリスト

◇まちづくり学校

- □　模造紙
- □　マーカー
- □　コピー用紙　Ａ３　Ａ４　Ａ５
- □　サインペン
- □　ガムテープ
- □　記録用具　デジカメ等

◇歯科医師会

- □チャレンジ１．２
- □シナリオ１．２
- □受付対応のゴールデンルール

◇配布資料

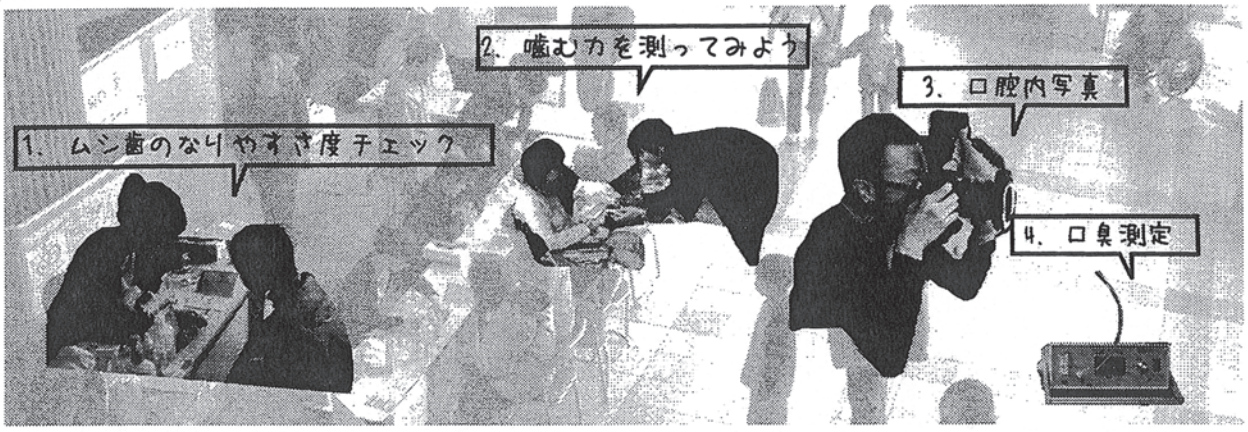
□必要資料　　３０部

2. 歯科のお試し体験コーナー&
お口から健康を考えるワークショップ～市民と歯医者さんとの意見交換会 2007～

日時：平成 19 年 3 月 25 日（日）12：00～16：30
会場：新潟ふれ愛プラザ（1F ロビー／ 2F 研修室）

歯科のお試し体験コーナー
12：00～13：00

会場 1F のロビーにて、歯科のお試し体験コーナーを設置。新大歯学部予防歯科学科の学生の協力のもと、４種の体験を用意し、来場者に楽しんでもらった。

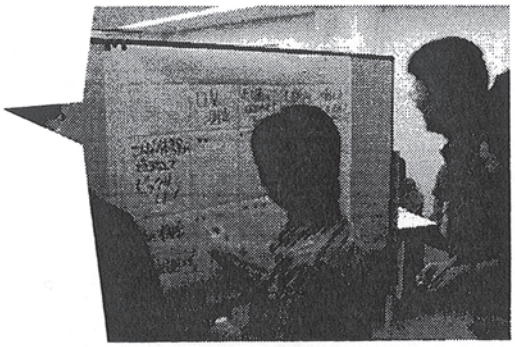


お口から健康を考えるワークショップ
～市民と歯医者さんとの意見交換会 2007～
13：30～16：30

会場 2F 研修室にて、一般市民と歯科関係者による［身近に感じられる歯科保健のあり方とは？」というテーマでざっくばらんな意見交換会を行った。

13：30　オープニング

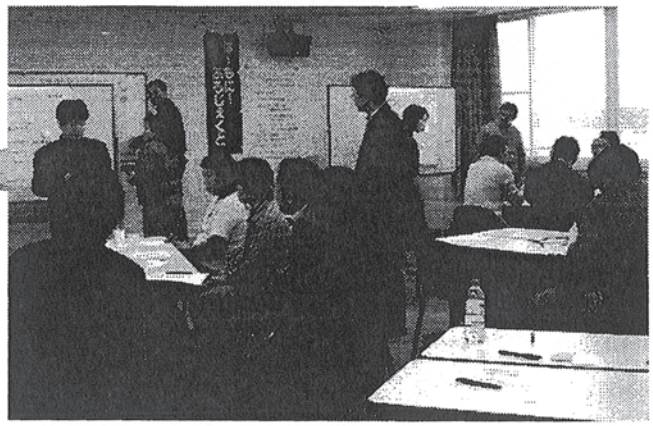
13：45　はーもにープロジェクト
　　活動紹介スライドショー



14：00　お試し体験のサービス番付＆感想を出し合おう

14：30　ゆるやかな関係づくり＆グループ分け





14：40　休憩

14：50　グループに分かれての意見交換

16：00　全体発表



16：15　本日のふりかえり

16：30　終了

21

サービス番付 & 感想

夜なら行きやすい '07.3.25

投票者68 (女性38 子どもさん38)	口臭測定	むし歯のなりやすさチェック	口腔内写真	噛む力を測ってみよう!
こんな体験ができるなんてビックリした!	●●	●●●●	気軽にチェックできるんだなあ	●● ガムの色がかむ力で変わる!
2	5		0	3
他の機会でもやってほしい!	●●	●●●	思ったより汚なかった△	●● 噛む力
2	3		0	4

- 口臭測定の感想
- 子どもたちに人気! 数値がかわっていくのがおもしろかった。
- 他でもやってほしい(父おとしより)など
- もう1回やりたい!
- おいしかった
- 私服なので まわりと とけこんで 区別できなかった。
- おじさんだったらうれなかった。
- 投票者68 (女性38 子どもさん38) するなら (やったすぐあとがよかった)
- もと点が高いと思った
- オープンな所 人に見られる 自分が自信のない所だから けん遠した。
- Q保存したい? → 捨てたい
- チェックできるなら、気軽に噛む力の弱い人によいかな。

意見交換会

'07.3.25
みんなプラザ

12:00～13:00 ロビーでの
お試し体験コーナー
スタッフの感想

思ったより
反応よかった

自分の立場を伝えれば
よいか悩んだ

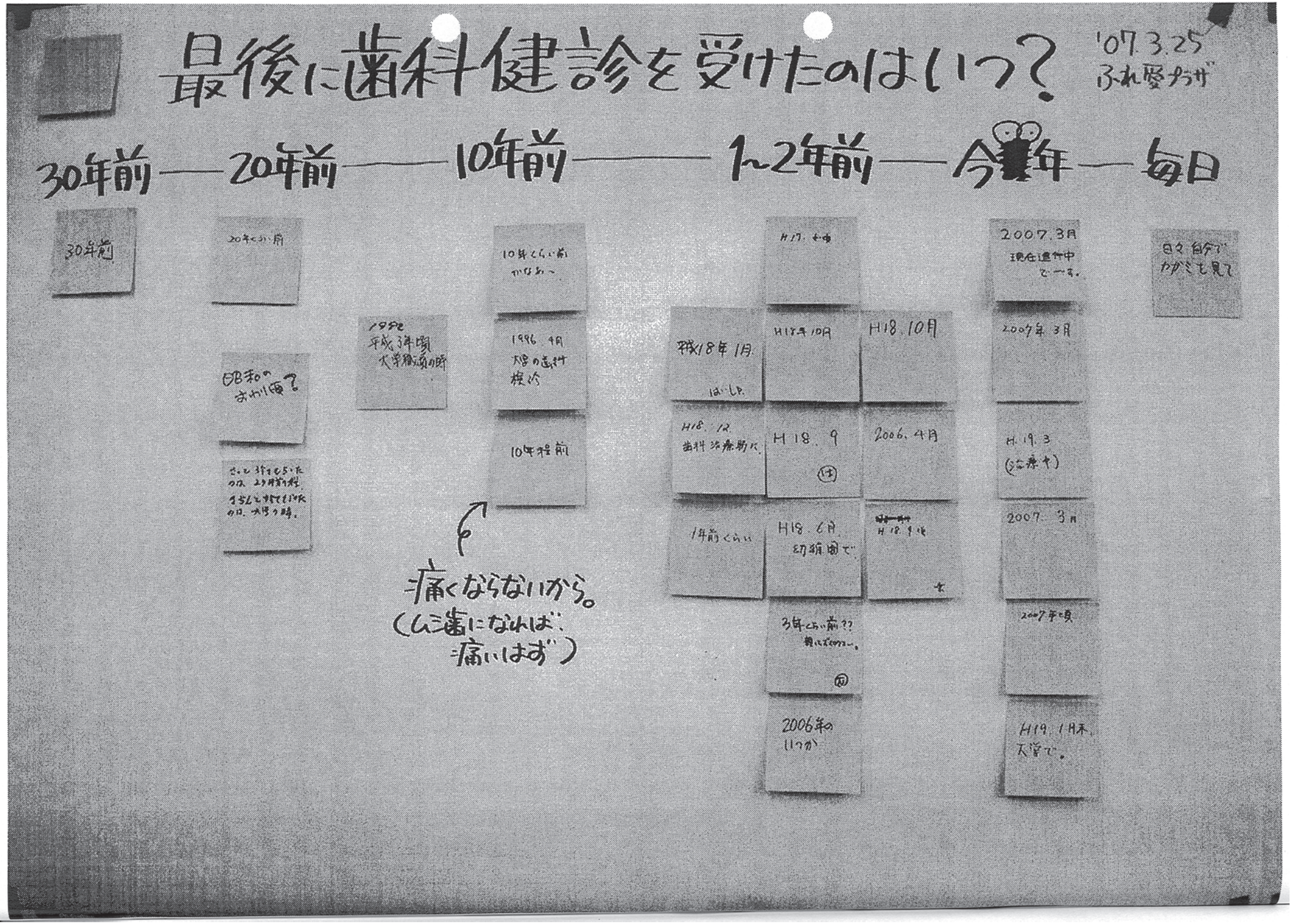
興味をもって
立ちどまった方が
誰に話かけて
よいか…悩んでた

噛む力
子どもに好評
大人にはもっとちがう
アプローチがあったかも。

口腔内写真
撮ったあと、何を伝えれば
よいか…まよった。
↳診療所なら詳しく、
外なら大まかなことを
伝えている(by 田田先生)

___は、最後に
歯科健診をうけた
のはいつ？

___は、歯医者さんに
市民の皆さんに
きいてみたい
素朴な疑問？
質問


最後に歯科健診を受けたのはいつ？
'07.3.25
ふれ愛プラザ
30年前
20年前
10年前
1~2年前
今年
毎日
30年前
20年くらい前
10年くらいかなぁ～
1996 4月
大学の選択授業
10年程前
痛くならないから。
(心臓になれば、痛いはず)
H17. 4月
2007. 3月
現在通行中です。
日々自分でかがみを見て
H18. 10月
2007年 3月
H18. 12.
歯科治療助成
H18. 9
2006. 4月
H19. 3
(治療中)
1年前くらい
H18. 6月
幼稚園で
2007. 3月
3年くらい前??
2006年の
いつか
2007年頃
H19. 1月末
大学で。

歯医者さんにきいてみたい 市民のみなさんにきいてみたい!

はもにープロジェクト

2007.3.25

口と体の健康

お口の健康をどのようにたもつのですか、どうすればいいのでしょうか?

歯と体の医療連携はどうなっているの?

歯と記憶

歯医者さんは魚の「キーーーン」という音はこわくないですか

診察台に乗るとすごくドキドキするのですが、どうすればいいのでしょうか?

材料の二色覚比色思いますか?

歯医者さんになって…

歯医者さんになって一番嬉しかった事は?

歯医者さんになろうと思ったキッカケは?

音楽療法

イメージが良くない(まんが…)

泣きながら治療した

使いすぎ

口の中の治療は?

口の中にできものができた時にはどうしていますか?

→すぐに歯科に行く?

歯と食生活

歯を丈夫にする食べ物やお口の体操みたいなものはありますか

歯医者さんは食生活が気をつかっていることは?

まだまだ甘党ですが歯には良くないのでこの辺の控えたほうがいいのでしょうか?

歯の手入れ

電動ハブラシは良いのですか?

歯医者さんは使っていますか?

歯医者さんは日頃の手入れはどうしているの

歯も丈夫だけど歯ぐきも丈夫?

歯ぐきのお手入れや丈夫にするにはいかがしたらいいの

歯医者さんはご自分のお口に自信がありますか?

歯医者さんはもし歯はないのでしょうか?

歯科医院は?

歯科医院でやってもらいたいサービスは?

どうしたら歯科検診を頻繁に受けてもらえますか?

何故歯科医院は来院しにくいのか?

選ぶ基準

歯医者さんが増えているのにどうして行っていいのかわからない(わかる方法)

歯医者選びの基準は?

歯医者を選ぶポイントは?

歯医者さんは最低何年ぐらいやっていればいい?

理想の歯医者像は?

歯医者さんにかかったときに最初に若い先生がでてきたときはどう思いますか?

困った患者は?

困る患者はどんな人?

私は口の中がキタナイのですがそんな患者の口を見るのはいやじゃないですか?

明細書見ます?

明細書は気になりますか?

ネーミングが古い!

「ばーもにー」「うろじゅくとり」のネーミングが素敵ですがどなたが考えたのでしょうか?

甘いものたばこが歯周病になるとは思わない

先生の治療はどこで?

歯医者さんはどこで治療するのですか?

・手の内を知っている先生

・奥さん治療してもらった

・他の先生にしてもらった

歯医者さんの専門

歯医者さんでも専門が違うの?

歯医者さんの専門科目はわかりにくいです

意見交換

07.03.25
はぁもにープロジェクト
ふれ愛プラザ No2.

痛みの判断

- 目玉が動く
- したの色 etc

来院したくない

- 消毒のにおいがイヤ?
- なぜか緊張してしまう

選ぶ基準は?

若い先生だったら

- 年令 性別差にはこだわらない
- ちょっとイヤだ　現在やかりつけは40代が?

理想の先生

患者さんの幸せを考える
障害者の治療
家族にもしてあげたい治療　痛くしない　よく話をきく
自分の理想までは手がとどく　普通のことを〃にできる
患者さんの人生を豊かに
なぜ歯医者になったか

- 偏差値が高かった
- イイイメージだった

先生の理想

- 人間的なふれあいがあるといいなぁ　声かけ話かけもしてほしい

こんな歯医者だったらいい

- せっとくしてくれる先生　治療の評価を本人に委ねる
- 得意分野がはっきりしている

ツボを押す

- 待合室に居たらおさまった

建物のイメージを変える

- リラックスできるような
  - マッサージチェア
  - ドリンクバー

歯医者(やな)の記憶

- においが
- 先生におこられた
- いいイメージがある
  - 正しい知識を教えてくれた
- 歯医者は怖いイメージ
- 親にしかられる
- 痛いって麻酔をしてもらえなかった
- すごく混んでいた
- 先生の技術は高い
- すぐ抜かれた
- 痛くない治療

意見交換

07.03.25
はーもにープロジェクト
ふれ愛プラザ　No3.

1. 選び基準

口コミ　セカンドオピニオンもしてみる。

2. 口と体の健康

・直ったという基準は？
イイ状態が続いている。

定期[redacted]診 …… 口の中の病気早期発見が必要。

↳期間は個別。
・モチベーションの継続
・リスクを知らせる。
・メンテナンスの効果を知らせる。

3. 歯と食生活

甘いものは好き。
ムシ歯になるとはかぎらない。
→コントロールが必要

はーもにープロジェクト

最初は固かった。
30くらい候補があった。
親しみやすいもの。

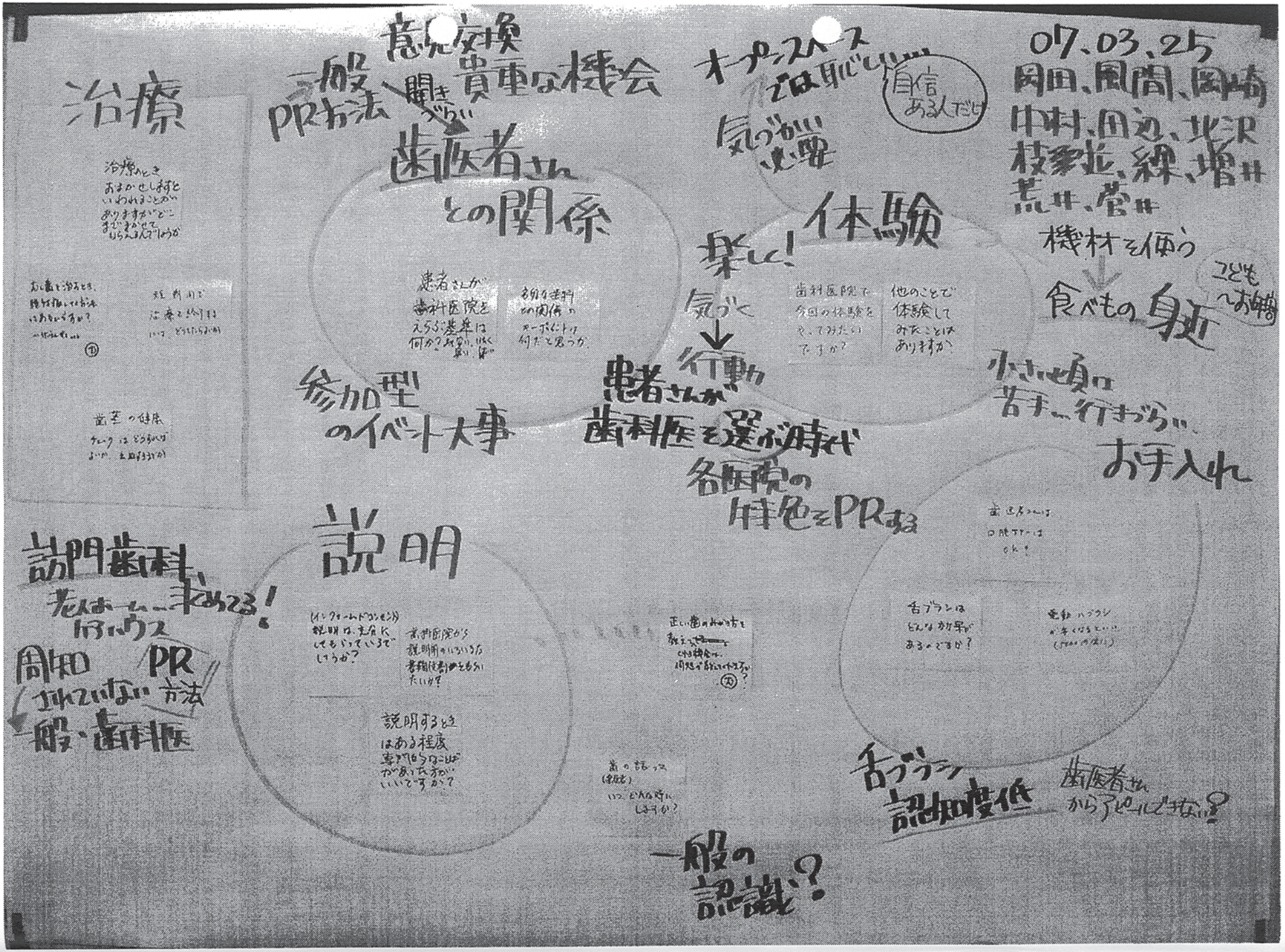
歯医者になってよかったこと　うれしかったこと。

・自己。
・患者の生き方が変わった。　心も健康になった。
・患者さんの笑顔が見えた。　信頼関係ができた。
・〃　おれを言ってもらった。

身近に感じられる歯科保健の取り方。

・話を聞いてもらえる。
・お互いの関係ができあがる。

メンバー
一般：本田、長谷川
歯科医師：今泉、豊里、佐藤、岩井、金子、近藤、竹内
DT：桑原　DH：伊藤


意見交換
一般PR方法
聞きづらい
貴重な機会
歯医者さんとの関係
治療
治療のとき
おかしいなと思うことがありますが、どこまでおたずねしてもらえる人でしょうか
患者さんが歯科医院を選ぶ基準は何か？
多分な歯科の関係
オープンスペースでは恥ずかしい
自信ある人だけ
気がかり
07、03、25
岡田、風間、岡崎
中村、田辺、北沢
枝家北、緑、増井
荒井、菅井
楽しい体験
機材を使う
食べもの自慢
こどもへお願い
気づく
行動
患者さんが歯科医を選ぶ時代
各医院の特色をPRする
参加型のイベント大事
小さい頃から若干、行きづらい
お手入れ
説明
説明は充分にしてもらっているでしょうか？
歯科医院から説明のいろいろな書籍(絵本)をもらいたいが
説明するときはある程度専門的な言葉はかみくだいた方がいいですか？
訪問歯科、名前はともかく
周知
PR
知っていない方法
一般・歯科医
正しい歯のみがき方も教えてもらえる検診。周知が高まってイイネ！
歯ブラシは何本かかるのですか？
電動ハブラシが良くなるといい（プロの使い方）
歯の話って（虫歯）いつ、どんな時にしますか？
一般の認識？
歯ブラシ認知度低
歯医者さんからアピールしないと？

07.03.25

連携⇨気軽なイメージづくり

コーディネーターがいない 歯科医

市民 関心ない 行政

周知 効果は変わる!

方法次第で

亀田では、歯科衛生師いない

企業も!!

CM効果絶大!

もっとPRTV 流れろ。

コミュニティ協議会での取り組み

予防歯科に力

医療機関で対応異なる

小さな頃から関わった かかりつけ歯科医大事!

歯科医院のカタイ事業ばかり…

医師と患者 信頼関係 重要

どうしたら作ってもらえる?

市民とふれあう機会

きれいにしてもらう PRになる

嬉しい! 通う

楽しい体験 まずは

興味 もってもらう

印象 臭い 子どもの頃から

外に出ない… 歯医者は 予約制! いっぱい…

訪問 行くね…命に関わらないから 後回し

様々な組織との連携のため、外に出よう!

1日をふりかえっての感想

07.3.25

歯医者さんのイメージが変わった！

- 距離が縮まった
  自分と同じなんだな
  （奥さんに治療された時にわかったという話。）
- 人間的なところが見れたから。
- 「歯医者さんに良いイメージがあるという方」に出あえた。
- 明るい印象をうけた。

歯科医の方は、
今日はじめて話した
事はあった？
← この話。

- いつも話している事と今日はなした事もある。

ひとりひとりが
一生懸命、取り組んで
おられるんだなあ
参加者から

接点
コーディネート

このあたりに
手をつけられれば
もっとふれあいが深まる！

歯科医から

今日のような場が
いろいろあるといい！
→ あれば出ていける

お口から健康を考えるワークショップ～市民と歯医者さんとの意見交換会 2007～
ふりかえりのまとめ

日時：2007 年 3 月 25 日（日）13：30～16：30

会場：新潟ふれ愛プラザ

○あなたが今日気づいたことは？

- 患者さんと歯医者の人間関係が大切だということ。
- 先生達が外に出られ（お忙しい中）市民に声がけをしてくれる事を嬉しく思いました。
- いろいろ意見があるのだと思いました。
- 一人一人の先生方が意見をしっかり持っているなと思いました。
- よい企画であったこと。
- 亀田にはすばらしい人材がいること。
- 患者さんとのふれあいが予想以上に楽しかったこと。
- 一般の方も歯科医師と対等な立場でコミュニケーションを取ることを求めているということ。
- 先生方が予防に一生懸命になっていることに気づいた。（
- 一般の方との接点ができた。
- 学生教育にワークショップのプログラムがあった。
- 久しぶりに一般の方との意見交換会でしたが、やはり、多くの意見が出て勉強になりました。
- 歯科側の思いやりが足りない部分が多いのが、新ためて分かりました。
- 多様な意見を聞き参考になった。
- 一般の方の求めていることと、歯科医師会の向いている方向が近いこと。
- 人集めはむずかしい。
- 皆さんが真摯に歯科に対して考えていらっしゃることがわかりました。

○あなたが今日うれしく思ったこと、満足したことは？

- 患者さんも歯医者と仲良くなりたいと思っていること。
- 歯医者さんのイメージがガラッと変わりました。もっと前に今日の気づきがあったら。
- いろいろな意見が聞けたこと。
- 歯科医師も一般参加の方も本音で意見が言えたこと。
- 地元の歯科医が多勢参加してくれたこと。
- 普段は会えない人々のお話が聞けて興味深かったです。
- 多くの開業医の先生方が口腔ケアに関心を持っていることや市民の人と触れ合おうとしていることをみることができました。
- 自分の意見が整理できた。
- 歯科医師は皆、患者さんの為に尽力していること。
- 亀田の歯医者の先生方が集まってくれてうれしかった。

3　3年間の活動成果のとりまとめ

○本年度は、過去３年間の活動成果を広く情報発信していくために、これまで実施してきた事業の内容・成果をとりまとめを行った。
○とりまとめは、出版を見据え、原稿形式で整理した。次頁以降に、本年度作成した原稿を掲載する。

※これらは最終形ではない。19 年度も引き続き、原稿執筆、編集作業、出版社との調整を行って行く予定である。

はじめに

ＮＰＯ法人まちづくり学校　理事　小畴　弘一（こあぜ　こういち）

「『歯科保健と住民参加』ということを考えている。一緒に考えて欲しい」、はーもにープロジェクトは、この一本の電話から始まりました。

ＮＰＯ法人まちづくり学校は、まちづくりの様々な場で、より良い住民参加の場の企画、運営を目指しています。その取り組みの内容を歯科保健に携わる方々に紹介して欲しい。「住民参加」とはどういうことなのか学びたい、という主旨の電話でした。私と理事の大滝が東京へ行き、取り組みの概要をお話ししました。その場に臨むまでは、私も大滝も「歯科保健」と「住民参加」ということがダイレクトに結びつかず、ただ自分たちの活動を紹介すればいいのだろうと思っていました。他の方々の研究成果発表を聞き、その後の懇談会でわかったのは次のようなことでした。

１．８０２０運動という運動を展開している。自分の歯を残すということが健康のためにとても重要だ。

２．そのためには予防歯科への関心を高めなければならない。

３．その重要性をできるだけ多くの人に伝えたいが、歯科保健の関係者にそのスキルが乏しい。

４．より多くの人に伝えるスキルを、まちづくり関係者が持っているのではないか。

異なった分野とのコラボレーションということにずっと興味を持ち、そういう場を持ちたい、つくりたいと思っていました。「歯科保健と住民参加」、これはおもしろそうだ、と私も大滝も思い始めました。そして新潟で第一回のミーティングが開催されました。歯科の開業医、研究者、行政の担当者、そしてまちづくり学校のメンバーが集まりました。運動に取り組むに当たって、最も重要なのは「運動の理念」です。まず「何のためにやるのか？」という運動の理念を明確にし、その理念に基づいて「現状を把握」しました。理念を実現するために良い現状もあるし、気になる現状もあります。良い現状からは「可能的な未来」が見えてきますが、気になる現状からは「成り行き的な未来（ーになりかねない）」しか見えません。「可能的な未来」があるのに「成り行き的な未来」に引っ張られてしまう。それが「問題」で、その「問題」をどうやって上向きの「力」にかえるかが肝心なところです。理念を達成するために、どういう方針の下でどのような具体的な方策を立案するか。どのようなスケジュールで実行していくか。この一連の流れを、まちづくり学校では「トータルプロセスデザイン」と呼んでいます。集まったメンバーで、まずこの作業をやりました。次にやったのは「ひたすら聞く」能力の訓練でした。日頃、説明することには慣れているが、「聞く」ことに慣れていない。住民とのコミュニケーションを可能にするためにはこの「聞く」能力が欠かせません。メンバー一人一人が、優秀な「ファシリテーター」になろう。この内部での訓練の実践が、その後の運動の展開の原動力になりました。

「やぶへび精神」、これはまちづくり学校の柱の一つです。「言いだしっぺ」がやるということです。「そう言うならおまえやれ」を恐れずに発言する。今回のプロジェクトでは多くの場面でその「やぶへび精神」が発揮されました。

第１章：【住民が主体となる歯科保健活動】

第１節：保健行動

「元気で長生きしたい」。健康作りは人生にとっても最も重要な問題です。

しかし・・・。

「脂っこい食べ物は体に悪い」とわかってもつい食べてしまう。

「たばこをやめてストレスがたまるくらいなら・・・」とたばこをやめようとしない。

わかっちゃいるけどやめられないことって多いですよね？

また、こんな例もあります。

「○○を食べるとやせることができる」といわれて買いに走ってしまう。食べた分だけエネルギー過多になるにきまっているのに・・・。

人は単純でわがままです。しかし、なんとか一部の意志の強い人だけでなく、大多数の普通の人も健康でいられるような世の中を作っていきたいと思いませんか？

保健行動という言葉をきいたことがありますか？少し難しくなりますが、保健行動とは「健康のあらゆる段階にみられる、健康保持、回復、増進を目的として、人々が行う行動」ということができます。その中で特に予防的保健行動とは、「自覚症状がなく、病気を意識していない段階であるにもかかわらず、さまざまな病気予防のための行動や病気の早期発見のための行動」を示しています。いかに有効な予防法が発見されても、人々がそれに対応する適切な行動をとらない限り実際的にその効果を発揮できません。

人々が何かを思い立って行動するにはどのようなパターンを取るのでしょうか？また、人々がより健康になるための保健行動をとるにはどのような点を考慮する必要があるのでしょうか？禁煙を例に考えてみたいと思います（図●）。

人が行動を行動を変えようと思うにはまず基本的な知識が必要となります。たばこであれば、

「タバコを吸うと肺がんが増える」

「タバコの害はタバコを吸う人だけではなく、周辺の人にも影響を与える」

「タバコをやめるにはニコチンパッチが有効らしい」

といったことです。ただ、知識だけではなかなか生活習慣が変わるわけではありません。心からそれを実感し、また自分にもできそうだと感じるステップが必要となってきます。たとえば

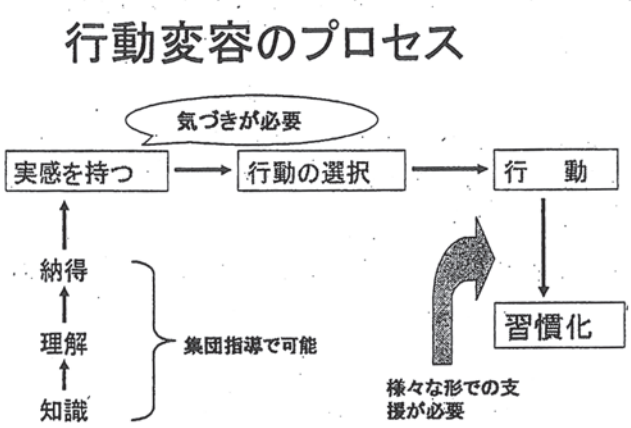
「ニコチンパッチをはったらタバコを吸わなくても大丈夫だった」

「タバコを吸わないと食事の味がよくわかるようになった」

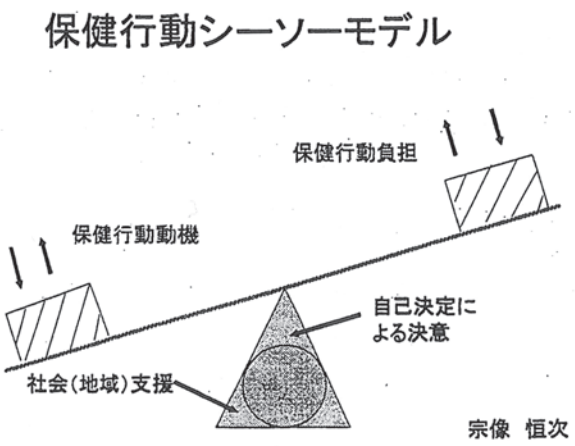
などがあげられます。当然この段階では周辺の環境も重要な役割を持っています。禁煙友

達がいたり、家族からの励ましなどがあれば継続しやすいことは容易に判断できます。

さらに、行動の随伴性についても考えてみたいと思います。何度も何度も繰り返し行っていくうちに行動パターンが習慣化され、無意識のうちにできるようになってきます。たとえば、夜電気をつけることを考えてみましょう。日常、みなさんは、夜電気をつけることにあまり考えることはないでしょう。それは、スイッチを入れると電気が入ること、電気が入れば部屋が明るくなることを知らず知らずのうちに学習した結果と考えられます。このようなことは、行動を何度も行うことで強化され、まったく無意識のうちに実施することができるようになります。習慣化されれば苦労することなく行動することができます。



たばこについてみると、食事で感じたおいしい味がごくあたりまえのことに感じられてきたり、意識をしなくてもタバコを吸わない生活を送ることができればその後の継続も大丈夫です。



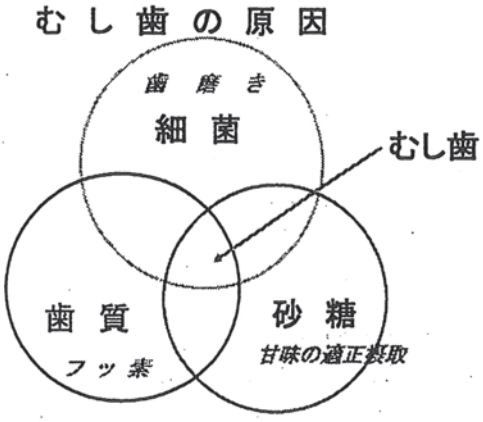
また、行動変容の力関係を示したものに、宗像先生（1996年）の示したシーソーモデルがあります。（図●）。自己決定による意志や社会的支援をシーソーの視点とし、保健行動負担が軽くなる、もしくは、保健行動動機が重くなるとシーソーは左に傾く、この状態になると保健行動が実行されやすくなります。つまり、保健行動を変容させるには、いかにシーソーを左に傾けるかが課題となります。

第２節：住民参加型歯科保健活動

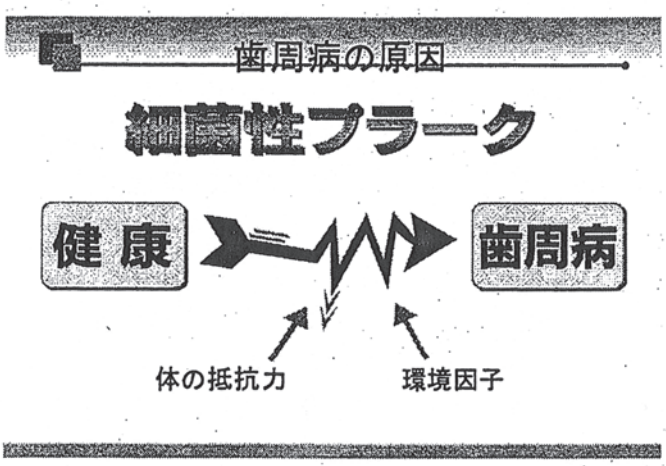
第１項：歯科疾患の原因と予防

食べることは最も基本的な日常行動です。生きるためにはきちんと食べなければなりません。さらに食べ物ののおいしさは私たちに満足感を与え、生きる喜びとともに豊かな気持ちにもしてくれます。最近食育の重要性が叫ばれ、各市町村では食育に関しての様々な計画が作られていますが、当然ながら歯が健康でなければ食育も達成が不可能になってしまいます。歯の健康を考えるにあたっては、広く社会のあり方も含めて総合的に考えていく必要があると思います。

既にお話ししたように、保健行動が変わるためにはまず基本的な知識が必要です。歯の健康を考えるなら、当然、歯を失う２大疾患であるむし歯と歯周病について発症疾患の原因およびその予防方法について整理しておく必要があります。



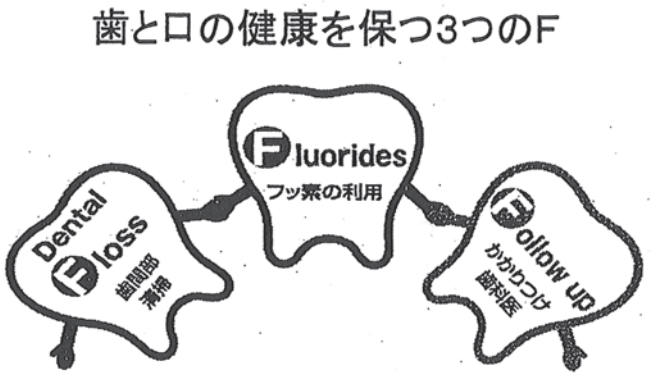
図●にむし歯の発症原因、および予防方法をまとめました。むし歯の発症原因には大きく、①歯質、②細菌（歯の表面についた歯垢）、③糖質（砂糖）の３つあります。したがって、予防手段も大きく３つに分けることができます。①歯質に対しては歯質強化としてのフッ化物利用、②細菌に対しては歯の表面についた歯垢を取り除く歯磨き、③砂糖については、おやつ等の取りすぎに注意した指導です。



次に図●に歯周病の発症原因、および予防方法をまとめました。歯周病の発症には、まず細菌性の歯垢が強く関わっています。そこに体の抵抗性や環境要因としての喫煙やストレスが影響を与えます。喫煙の影響は遺伝的影響と同程度かそれ以上とされ、この他にも、女性では妊娠、閉経などのホルモンのバランスの変化も影響すると言われています。従って歯周病を予防するには、まず、歯の表面に付いた細菌性の歯垢をきちんと取り除く歯磨き、歯間ブラシや、デンタルフロスの使用、および歯科医院への定期的な受診および歯石等の除去などが必要となります。

これを踏まえて、新潟県では、県民の歯の健康を守るためにの県民施策として 2001 年から「ヘルシースマイル 21」を展開しています。そこでは生涯にわたる歯の健康を維持

するために「3つの F」を推奨しています（図●）。すなわち、生涯にわたるむし歯予防としての「フッ化物応用（Flurodes）」。「歯間ブラシやデンタルフロスの使用（Dental Floss）」、よよび「歯科医院への定期的な受診（Follow up）」です。歯科保健はこのように疾患に対する対策のメニューはほぼ示されており、あとはいかに住民がそれを選択し実施できるような環境を整えてあげるかが重要となります。



第2項：施策の決定と住民参加

住民が生涯の歯の健康を獲得するにはどうすれば良いのでしょうか？

「どうしたら住民が知識を得ることができるのでしょうか?」

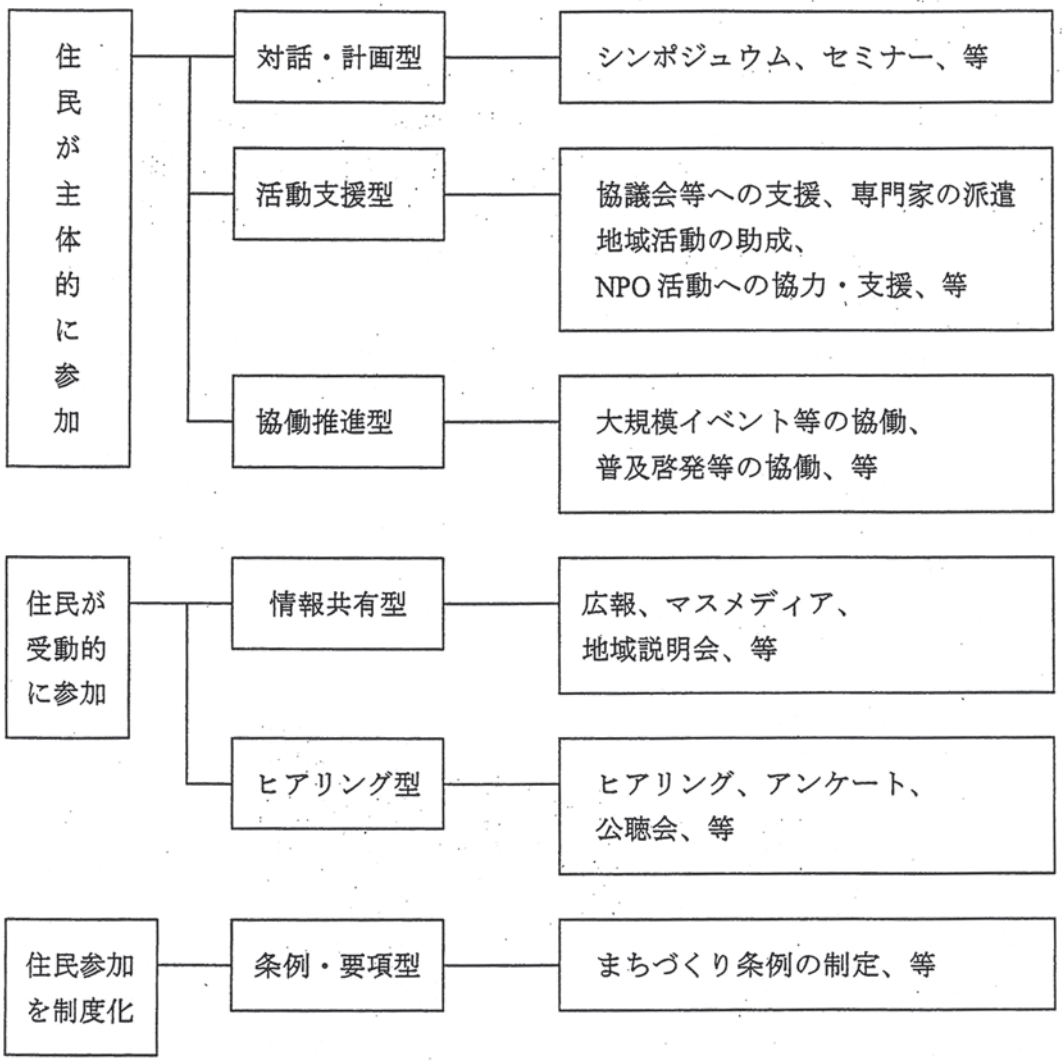
「どうしたら住民の行動が良い方に変化するような事業を展開できるのでしょうか?」

住民は、ある意味刺激的で、ある意味わがままな存在と考えられます。住民を引きつけるには魅力的な、飽きさせないアプローチが必要になってきます。たとえば、北海道の旭山動物園での取り組みは良い例だと思います。当時旭山動物園は来場者が少なく廃園寸前だったと聞きます。しかし、動物園の楽しさ・すばらしさは飼育係の人はよく心得ています。そこで、いかに動物の楽しさ・すばらしさを一般の方に伝えるか考えたそうです。たとえば、シロクマの会場は、通常、おりの上から生態を見学します。しかし、シロクマを下からのぞき込むことによって、シロクマにしてみれば人間をえさだと思って飛び込んできます。見学者はその迫力に圧倒されたそうです。

また、商品についてもみてみます。ヒット商品は偶然生まれることもあります。しかし、長期的に売れる商品の開発・育成には、常にネタを準備し、戦略を仕込む必要があります。ロッテの商品開発部のかたは、ブランド育成について「核は変えず、何か新しさを見せつつ、常に期待感を持たせながら、いつも満足させ、飽きさせない事ですが、同時に、機能的・情緒的価値を構築し、訴求し続けること、現ユーザーのロイヤリティを維持、向上させていくこと、存在感の希薄さを排し、常にニュース性を持たせること、が成功失敗を分ける鍵だと考えている」と述べています。

住民に受け入れられない事業はいくら内容が良くても何の役にも立ちません。全国的には、このような背景に中で「住民参加型」による活動が盛んに行われるようになってきました。図●は、新潟県がまとめた地域コンセンサスの形成方法です。コンセンサスの形成方法は住民の関わり方により分類できます。一つの事業でも、複数の方法を組み合わせて実施される場合が多くあります。また、住民の意見を聞く際には、グループインタビュー

法も有効です。



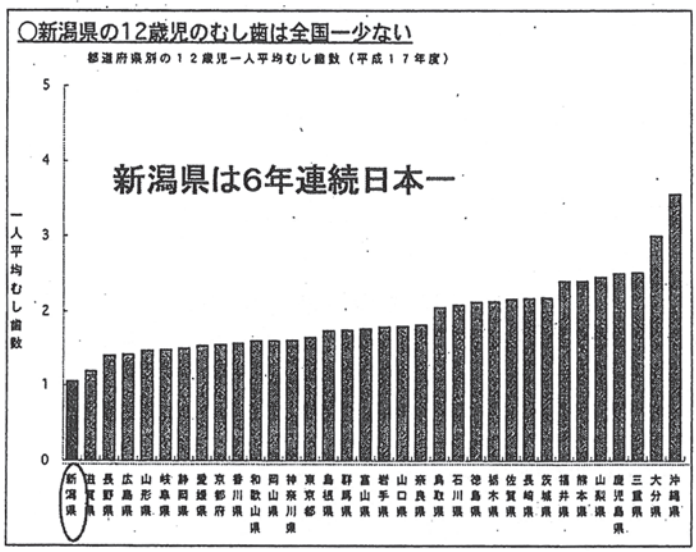
図● 地域コンセンサスの形成方法の体系（県民参加型事業手法の導入ガイドブック、改編）

地域活動の進め方には多くのパターンがあります。たとえば、住民の意見を取り入れながらすすめる代表的なモデルに Green らが提唱したプリシード/プロシード・モデルがあります。QOL の向上を疾病予防の最終目標として構築されていて、その達成のためにはどうするかを検討していきます。歯科保健の領域では、いち早く応用がこころみられています。特に NOP 法人ウエルビーイングを中心としたグループは、自治体や事業所における歯科保健の取り組みにこのモデルを使って成果を上げています。歯科保健領域におけるこのモデルの有用性については、いろいろな実践例で証明されていると言うことができます。しかし、新潟県では、残念ながら歯科保健の分野での目立った活動はありませんでした。

第２章：【はーもにーぷろじぇくとの活動（歯科医師も参加する住民参加型歯科保健活動）】

第１節 歯科保健と町づり活動の融合

まず、新潟県の歯科保健活動の現状を説明します。既にお話ししたようにむし歯や歯周病については発生する原因や予防法が確立しています。つまり、ライフスタイルに対応した予防法を行うことができれば生涯にわたる歯の健康の維持が容易になります。現在、新潟県では「ヘルシースマイル２１」を県民施策として構築し、むし歯予防や歯周病予防に取り組んでいます。その結果、特にむし歯予防に成果をあげ、新潟県は日本一子供たちのむし歯が少ない県を６年連続維持しています（図●）。また、歯周病予防についてもデンタルフロスの指導が約半数の学校で実施されたり、学校健診で歯肉炎や歯肉炎一歩手前の状態が見つかった場合には地元歯科医院への予防および治療勧奨を行っています。



しかし、成人歯科健診については、現在新潟県の市町村で実施しているところは約３割にとどまっています。この実施率は全国平均を下回る状況です。また、せっかく成人歯科健診を実施しても希望率はたった５～６％のところもあります。せっかく、県民の歯を健康にする技術を持ち、住民の方に場を提供しているにもかかわらず、なかなか、一般住民の方にはそれが伝わりにくいようです。

そのような中、平成 15 年２月に新潟市で住民参加に関連するシンポジュウムが開催されました。町づくり学校の小畴弘一さんと大滝聡さんをシンポジストとしてお呼びし、町づくり学校の活動についてお話しいただきました（図●）。

その時、

「皆さん方は住民の方のために良い資源を持っているんでしょ。
でも住民歯科健診をしてもあまり受けていただけないんですか？
それは皆さん方が住民の心をつかんでいないからですよ。

住民のためにするんだから、住民の視点で考えなくっちゃ。
歯科専門家で考えたってたかがしれていますよ。
そこで出来る部分はすでにやっているわけですよ。
まさに町づくりをしている私たちに聞いてみたらどうですか?」
というお話しがありました。

これが、今にして思えば、「はーもにーぷろじぇくと」のはじまりでした。

しかし、私たちは半信半疑でした。どうみても一番歯科保健のことを考えているのは私たちであるのは間違いなく、私たちが苦労して考えたことには間違いはないと考えていたからです。聞けば町づくり学校では、道路建設や万代橋の欄干設計、ひいては新潟駅開発における住民の方の意見の調整を行ってきたとのことでした。驚くことには、行政から補助を受けて実施されているその意見交換会では、たとえば、結果的に道路が出来なくてもそれはそれで住民の選択という方針を取っていました。つまり成功を前提としていないわけです（何をもって成功と考えるかは重要なテーマですが）。
なにか私たちの今までの活動とは違う新しい流れを感じました。

NPO法人町づくり学校の理念および校則

理　念	●地域おこし、星おこしのための人財を育成する ●みんなの夢や想いを実現し合う広場（公私統合圏）を創造する ●幸せを感じられる社会システムを築く
校　則	一、やりたい人がやる　＜やぶへび精神＞ 一、お互いに助け合う　＜根性良し精神＞ 一、みんなが生徒、みんなが先生＜めだかの学校精神＞

「もしかしたら、**歯科保健と町づくり活動の融合**により、何か考えもつかなっかったような新しいことが出来るのではないか？」。
私たちは誰もがそう思いました。

早速、小畤弘一さんに意見を伺いたい旨、連絡を取りました。

私たち歯科専門家は、歯科保健で論じられていることは非常に簡単でわかりやすいと考えがちです。たとえば、「８０２０運動：一生自分の歯で食事に不自由しないようにしよう」、「むし歯の原因は３つあって予防はそれぞれに対して大きく３つある」等々。ここが大きな**勘違い**でした。**言葉として分かることと、実感として分かることの間には大きな壁がありました。**歯科疾患は慢性的に推移することから、たとえば、急性症状としてあらわれ、治療の成果も劇的に生じる伝染病や食中毒とは病気に対する感じ方に大きな

違いがあります。何となく分かるけれど実感に乏しいのが歯科疾患の特徴のようです。これこそが歯科専門家と住民意識のギャップです。

「新潟県における成人歯科保健促進」を目的としたモデル事業がスタートしました。モデル事業は住民参加型歯科保健活動をテーマとし、NPO 法人町づくり学校との協働事業です。モデル事業の立ち上げに向けて、日本歯科医師会、新潟県歯科医師会、新潟市歯科医師会、新潟県福祉保健部、新潟市保健所、新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野、NOP 法人町づくり学校関係者が参加する勉強会を計画しました。まず、歯科関係者、NPO 法人町づくり学校双方の共通認識を得る必要があります。勉強会は３回開催し、モデル事業の方向性・進め方を確認しました。勉強会を進めるにあたっては、**ファシリテータ**による進行、**ファシリテーショングラフィック**による記録、**会議レイアウトの工夫**、**未来デザイン**による検討など、町づくり学校が有しているノウハウを駆使しました。

その後、勉強会出席者を中心に、新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野とNPO 法人町づくり学校が事務局となった実行委員会を立ち上げました。実行委員会では、まず私たちのグループを**「はーもにーぷろじぇくと」**と名付けることにしました。この名前も、先ほど話した、ファシリテータやファシリテーショングラフィックによるワークショップを通して決まったものです。**「はーもにーぷろじぇくと」**のロゴマークは町づくり学校の方に考えていただきました（図●）。



当初、ワークショップでは歯科医師などの歯科専門家はあえて積極的に意見を出すことを控えました。なぜなら、基本的には歯科保健の専門家が考えても斬新な意見は出にくいと考えていたからです。町づくり学校の方々との意見交換の中で新たな視点での活動を期待しました。最初の実行委員会は平成 15 年 10 月に開催されました。そこでの私たちの驚きはただごとではありませんでした。ワークショップによる意見交換。会話内容のファシリテーショングラフィックによるまとめ、場を盛り上げるようなファシリテータのかかわり、そのいずれもが、生き生きしていました。

ただ課題も見えてきました。話題の広がり、出席者の参加意識の向上には大きな効果があるものの、具体性、計画性、には劣るように感じました。ところで、ワークショップが成功かどうかの基準はどこにあるのでしょうか？この問題を考える上で重要なことは、この会の発足に立ち返る必要があります。つまり、私たち**歯科専門家が考えられる部分は考え尽くしてきた。**さらに歯科専門家が考えていることは住民の心をとらえない場合が多い、のです。従って、私たちが考える**ワークショップの成功**は、取りも直さず私たちが**日頃考えもしなかったこと（はっとするような）が意見**として出てくるかどうかです。具体的な計画を作ったり、実行したりするのはそもそもワークショップの役割ではなく、別な場で検討すべき課題なのです。

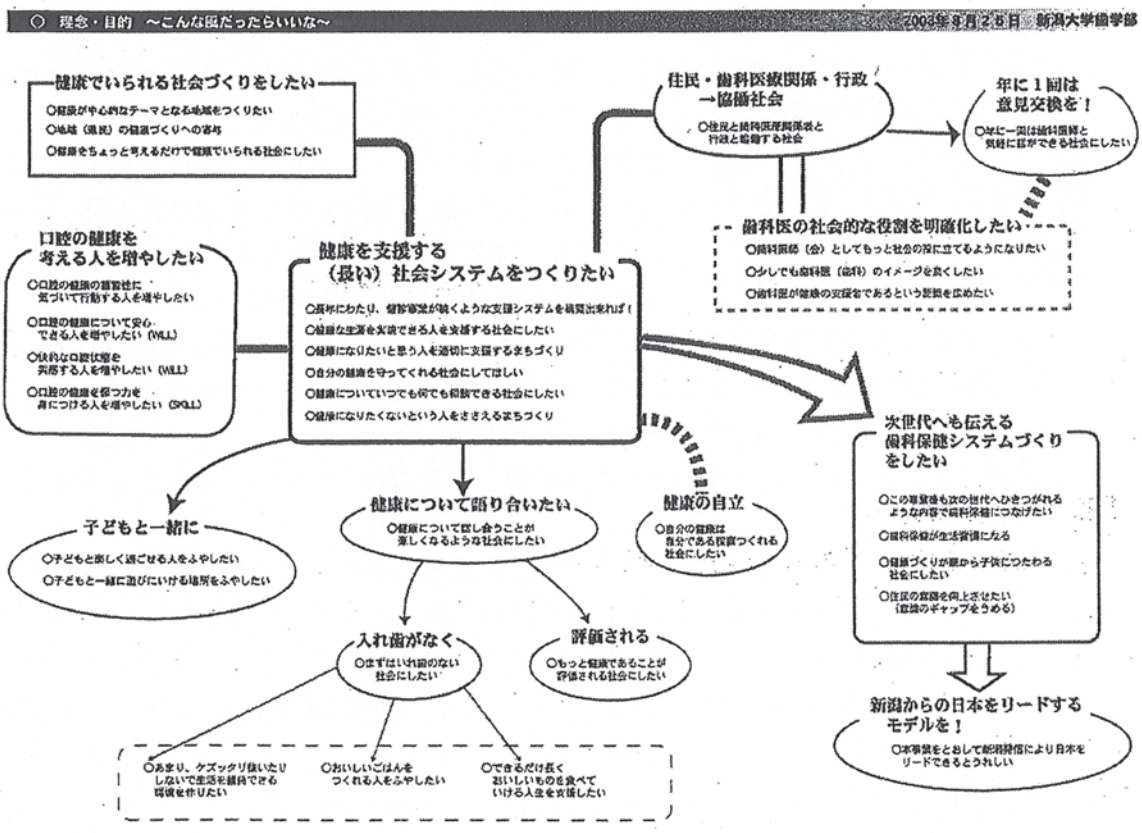
第２節　はーもにーぷろじぇくとの活動

有効な事業を展開するには、まず歯科関係者と町づくり関係者が同じ視点に立つことが必要でした。

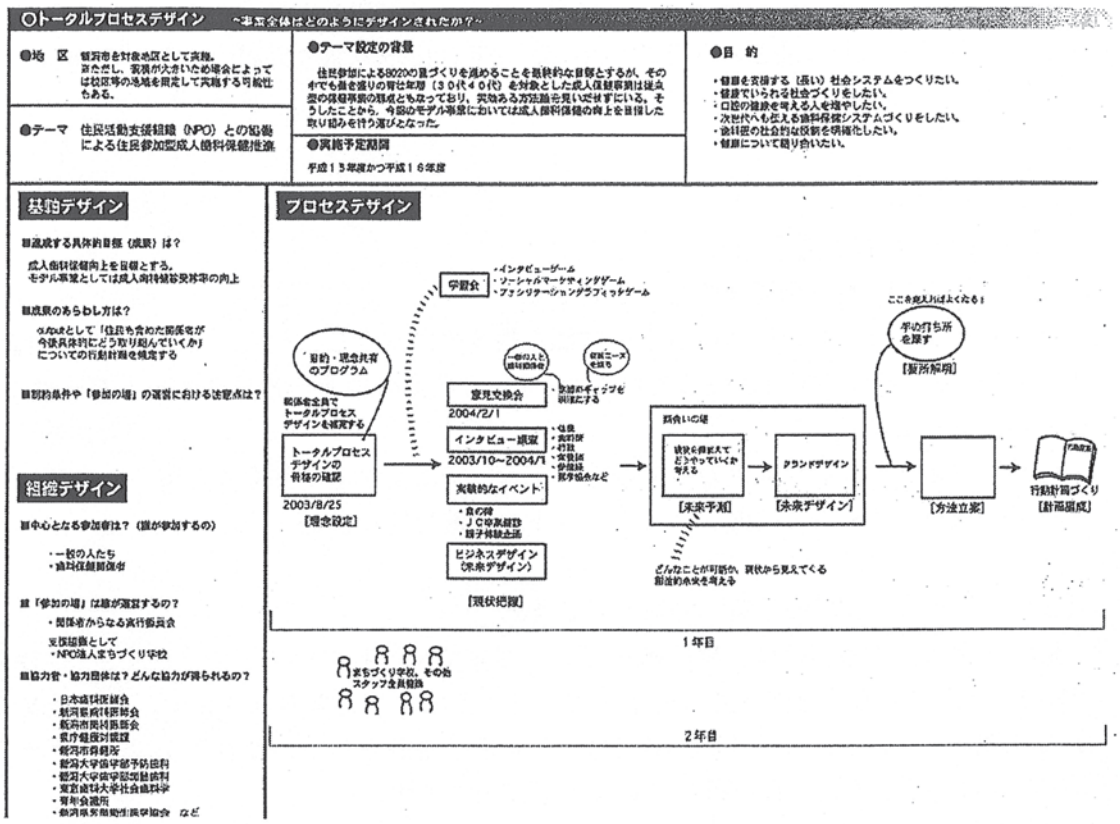
そもそも私たちは今回の活動を通じて何を実践したいのでしょうか？

冬の新潟の天候のようにぼやーとしてなかなか晴れ渡りませんでした。ここで町づくり理論の出番です。要所解明により我々の活動の理念・目的（ーこんな風だったらいいなー）を明らかにしました。図●に結果を示します。私たちの活動目的は以下の６点にまとめることができました。

「健康を支援する（長い）社会システムをつくりたい」
「健康でいられる社会づくりをしたい」
「口腔の健康を考える人を増やしたい」
「次世代へも伝える歯科保健システムづくりをしたい」
「歯科医の社会的な役割を明確化したい」
そして、
「健康について語り合いたい」



さらに、トータルプロセスデザインとともに基軸デザイン、組織デザイン、プロセスデザインを図●のようにまとめ、行動計画の作成づくりに入りました。



行動計画を作るにあたって住民が歯科保健に対してどのように考えているのか知る必要があると感じました。その時思い出されたのが**「やぶ蛇の精神」**です。思い立ったらまずやってみる。私たちは、意見交換会、インタビュー調査、各種イベントを通じて、一般の方の歯科保健に対する考え方を把握しました。その結果については以下のようにまとめることができました。

【基本的な考え方】

1. 歯に関する住民の意識は決して低くない

本事業で実施した実験プロジェクトから、「決して住民は歯に無関心な訳ではない」という潜在的な住民意識を把握することができました。そして、歯科保健推進の障害となっているのは、「情報の伝達方法」であることが、おぼろげながら見えてきました。今後の歯科保健推進にあたっては、この「情報伝達が重要なポイントとして展開していくことが重要です。

2. 住民参加によって成果を残すには一定の時間をかけることが必要

住民参加によって劇的に状況が変化するわけではありません。住民参加は、結果だけでなくプロセスも重視するという点の認識が必要です。住民参加は、即効性のある特効薬ではなく、じわじわと効いてくる漢方薬であるという認識をもつことが必要です。

3. 住民参加とは「専門家も参加する」ということ」を意味している

住民参加を推進するにあたっては、住民と同様に「専門家も参加する」という認識が不可欠です。歯科保健推進という目的の中で、お互いに歩み寄りながら、色々な考え、意見を共有できる場を設定していかなければなりません。

【基本方針】

1. 情報の伝え方を見直す

（1）専門家側の情報伝達技術を向上させる

現在行っている情報伝達の仕組み・方法を根本的に見直し、住民へ「どのように情報を伝えていくか」を改めて再構築していくために、専門家の情報伝達技術の向上が必要です。

＜＜具体的な展開例＞＞

・専門家（歯科関係者）向けの情報収集・伝達技術に関する研修会の実施

・歯科保健以外の分野で開催されるイベントへの積極的な参加

（2）住民へは”住民の言葉”で情報を伝える

歯科保健に関する情報は、専門家の視点・言葉で発信していくのではなく、「住民の視点から」「住民の言葉を使って」発信していくようにする必要があります。そのために、住民の意識・関心などを把握し、場面に応じた情報発信をしていけるよう、マーケティング等の視点から、意向把握を行っていく必要があります。

＜＜具体的な展開例＞＞

・ワークショップ等の手法を用いた意見交換会の実施

・住民ニーズに合わせた情報発信・普及啓発活動の方法の検討

（3）専門家間での情報共有の促進

歯科保健に関係する各主体（歯科医師会、行政、企業、関係団体等）間で出されている情報をこれまで以上に共有できるような機会を積極的に設けていく必要があります。特に、企業の協力（試供品などの供与等）を受ける際には、企画書の事前提出、実施報告を行うようにし、関係者間の情報共有を積極的に図っていく必要があります。

＜＜具体的な展開例＞＞

・協力依頼の際の事前説明（企画書提出等）および実施報告の徹底

・各種取り組みの報告会の実施

2. 情報をつなぐ仕組みをつくる

（1）専門家と住民とをつなぐための仕組み・受け皿づくり

今後の歯科保健の推進にあたっては。専門家だけでなく、各種住民組織・学校・企業等、様々な分野と連携しながら取り組んでいくことが重要です。そのために、多様な住民と専門家をつなぐための仕組みとその受け皿となる組織づくりをすすめていく必要があります。

＜＜具体的な展開例＞＞

・歯科衛生士の人たちの組織化（つなぐための受け皿組織の育成）

・つなぐためのノウハウの蓄積

（2）多様な組織・団体との連携を促す場づくり

現状では専門家（歯科関係者）と異分野の人たちが、直接交流する機会はほとんど設けられていません。そのため、様々な分野の個人・団体とが交流するきっかけを積極的にもうけるようにし、協力して歯科保健の推進を展開できるような土壌作りに取り組んでいく必要があります。

＜＜具体的な展開例＞＞

・専門家と様々な分野の個人・団体とが連携していく機会を積極的に設ける
・他分野の団体が主催するイベント等への積極的な参加

【各主体の役割】

1. 専門家（歯科関係者）

・情報伝達技術の向上
・他団体との交流機会を積極的に創出していく
・様々なイベント・会合等に積極的に参加する
　→情報伝達に関する講座の開催・参加
　　交流会等を自主的に開催する
　　専門家側の積極的な参加、人の派遣

2. 歯科衛生士

・歯科衛生士の組織化
・つなぐための情報・ノウハウの蓄積
　→歯科衛生士同士の横の連携をつくる
　　コーディネーターとしてのノウハウの蓄積

3. NPO

・情報伝達技術等のノウハウ提供
・異業種交流を進めるための仲介・支援
・交流の以降を持っている住民団体の発掘・参加要請
　→ノウハウ提供の講座を開催する
　　異業種交流のコーディネータ役
　　住民と専門家を結ぶコーディネータ役

4. 住民・住民組織

・専門家との交流機会への積極的な参加
・専門家側へ住民の意向を伝える
　→交流機会への積極的に参加
　　意見を伝える

5. 行政

・PR 手段や広報内容の見直し

→住民の関心を惹くような広報手段・内容の検討（住民参加による検討）

JC 健診

新潟市行政が市民向けに行っている行政サービスの一つに「成人歯科健診」があります。これは４０歳、５０歳、６０歳、７０歳の節目に、むし歯と歯周病の早期発見を目的に普段歯科医院に受診する機会のない方々に対して、歯科健診を受ける機会を設けようと始められた試みです。しかし、低料金で健診を受ける事が出来るにもかかわらず、一向に受診率が向上しません。平成１６年度の受診率を見ると、わずか５．８％。その受診者の中の要精検、要医療の方々が８８．８％。つまり、受診すれば何らかの問題が発見されてるにもかかわらず、問題は放置されているのが現状です。そこで「成人歯科健診の受診率向上の一方策」としてＪＣ会員との意見交換会を実施することになりました。

新潟ＪＣは正式名称を「(社)新潟青年会議所」といい、２００６年度には会員数１７７名、平均年齢が３５．６歳の若きエリートの集団です。このＪＣのメンバーを３０歳代の働き盛りの集団ととらえ、この世代から定期検査の重要性を理解してもらい、その後の成人歯科健診を受診するきっかけを提供できたらと考えました。

それでは具体的な意見交換会の流れを紹介しましょう。これは平成１７年度に行った「ＪＣ意見交換会」のものです。

1　事前アンケート
2　意見交換会当日アンケート
3　歯科健診
4　ディスカッション

１の事前アンケートと２の当日アンケートは、ＪＣ会員の歯科、口腔に関する意識調査のために行ったもの。抜粋して代表的なものを紹介しましょう。

質問　自分のお口が健康だと思いますか？
　まあ健康　　３０％
　やや不健康　　４０％
　大変不健康　　３０％
質問　現在、身近に何でも相談できる、かかりつけ歯科医はいますか？

いない　　６０％
いる　　４０％

質問　今までにお口の問題で、困ったり悩んだりしたことがありますか？
特に無い　　４０％
ある　　６０％
（それは、どんなことですか？）
むし歯、口臭、口内炎、八重歯、歯が抜けた　急に歯周病になった　等

質問　新潟市が行っている成人歯科健診を知っていますか？
知っている　　０％

質問　どのような時に歯科に受診しますか？
痛くなってから　５０％
痛みが我慢できなくなってから　　２０％
その他　　３０％

質問　糖尿病や喫煙が歯周病を悪化させる事を知っていますか？
知っている　　０％

以上のアンケート結果から、集団としては、普段から口の健康に注意している様子もなく、かといって自信を持っている訳でもないことがうかがえました。では、実際に成人歯科検診と同じ方法で歯科健診を行い、お口の中を拝見してみました。

３の健診結果
要医療　　０％
さすがに若きエリート集団。歯石の沈着をわずかに認めた程度で、概ね良好な口腔内でした。

意見交換会では主に、定期検査の重要性についての話し合いがなされました。当日の参加者のほとんどが、かかりつけ医から定期検査の案内を受けていますが、受け取り方は様々でした。意見としては

「定期検査の提案は、理解できるが積極的には受診はしない」「案内が来たら、とりあえず１回は行くが、それ以降の案内には応じないだろう」「受診したくなるような定期検査のアナウンスをしてほしい。」「電話で直接言われるのは嫌だ」「印刷物のハガキでも、手書きの一文があるとうれしい」「印刷物のＤＭで良いから，ハブラシやディスカウントのサービスがほしい」等。また、参加者からは事前に質問を聞いていたので資料を提示して定期検査の重要性と関連付けて説明しました。

「修復物の寿命が知りたい」
確かに修復物によって寿命の差はありますが、平均して６．９年です。（表２）この平均には現在ほとんど使用されていないバンド冠も含まれていますので、実際はもっと短くなるでしょう。しかし、問題は修復物の寿命ではなくて、修復を開始する事によって２次う蝕（修復した所の隙間や、つなぎ目からむし歯になること）を招き、やり直しの度に修復のサイズが大きくなる事、すなわち、歯が多く削られていく事を説明。この２次う蝕を予防するにはメンテナンスしかなく、定期検査時に必ずメンテナンスが必要になってくる事を強調しました。典型例では歯の寿命は４０～５０年です。小学生の頃に修復治療した歯は、メンテナンスがなければ５０歳代で失う事になります。（表３）今や、歯科医院で行う定期検査とは、むし歯や歯周病のあら探しではなく、修復物のメンテナンスを意味している事であり、メンテナンスを行う事で、修復物を長期にわたり維持し、結果的には治療費を最大限抑制できるもの事を理解していただきました。（写真１）

約１時間半の意見交換会でありましたが、最初は歯科に関して消極的な意見ばかりが目立ちましたが、時間の経過とともに積極的な意見も出るようになりました。やはり、費用や時間に関しては関心が高く、これらに関しては非常に興味を示したもらったのが印象的でした。ＪＣの会員は、そのほとんどが企業でのリーダー的な存在ですから、彼らの貴重な時間と財産を無駄にしないためにも、今のうちから（３０代から）予防に関して正しい認識が必要だと思います。歯科疾患による企業の経済的損失に関して触れる事が出来ませんでしたが、そのような観点からアプローチできたら、さらに十分な理解を得れたと思います。

食の陣

はーもにープロジェクト「食の陣」原稿

にいがた食の陣における実験イベントは，平成 16 年 2 月 7 日（土），8 日（日）の二日間にわたって行われた事業です．



この年は，はーもにープロジェクトが立ち上がった年です．7 月から数回の会議を重ね，その会議の話題の一つとしてどのようにしたら歯科保健活動が広まるのか？特に成人歯科保健，例えば新潟市における成人歯科健診事業の受診率は約６％ですが，その受診率向上のための秘策はないのか？などを話し合っていました．その中で，実際に一般の方々は「歯科」というものに対してどのような考えを持っているのかを再度把握することが必要なのではないか？という認識に至りました．そこで，一年目は様々な対象者をターゲットに「出会いの場」を作ることが提案され，意見交換会を行う事が事業化されていきました．実際に事業化されたものが１ー５です．

１．歯科保健関係者・市民へのインタビュー

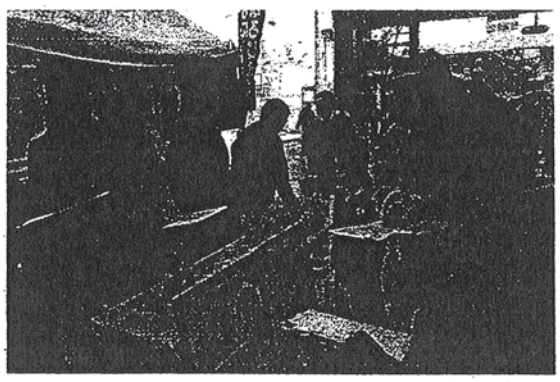
２．市民と歯科保健関係者との意見交換会

３．にいがた食の陣における実験イベント

４．JC 健診，意見交換会

５．親子体験学習プログラムの実験

“にいがた食の陣”は，旬の食材を活用し，新潟の魅力を全国に発信するために新潟市内で毎年開催されているもので，古町，万代シティ，新潟ふるさと村，新潟駅東側連絡通路の４ヶ所が会場になっています．我々はその中の古町会場に「はーもにープロジェクト用ブース」を設置してイベントを行いました．前述した５つの事業のうちこの食の陣イベントは来場者が非常に多く期待できることから，「食」という切り口から歯科保健を PR し，来場者から歯科に関する意識・意見に関するデータを収集する．そして，食という身近な話題を通じて歯科に対する市民の本音を把握することを目的としました．



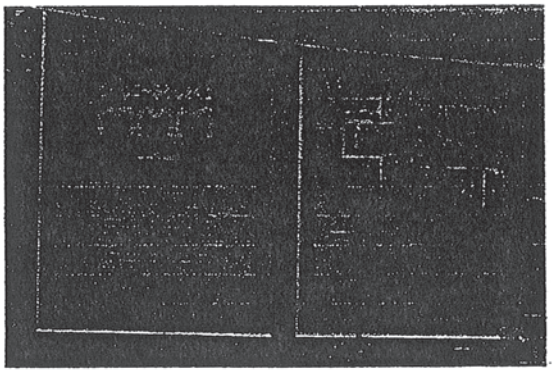
実際の食の陣イベント内容は次のとおりです.

1）口の健康相談コーナー：来場者を対象に歯を中心とした口腔に関する各種相談を受け付ける.

2）８０２０クイズ：８０２０の理念を分かりやすく伝えるため，クイズ形式の催しを開催する.

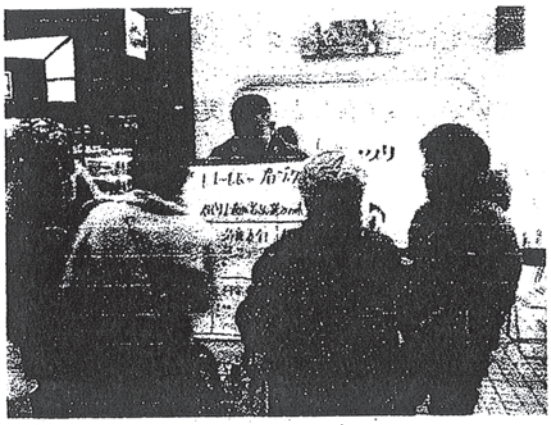
3）各種体験コーナー：電動歯ブラシ，歯間ブラシ等の体験コーナー.

4）パネル展示：８０２０の理念やはーもにープロジェクトのこと，歯とスローフードに関するパネルを作成し展示する.



5）プレゼントアンケート：歯科保健に関するアンケートに答えてもらった人に歯科に関する景品をプレゼントをする.

また，イベント内容にはなかったのですが，通り過ぎた方たちには街角インタビューなども行いました.



目的から分かるように，1）ー5）の中で最も重要な項目は5）で，より多くの方からアンケートを採り今後の行動計画作成の基礎データにすることとしました.

「アンケート結果」

今回のアンケート参加総数は１２８３名でした．その内訳は，女性８２９名（６４．６%），男性４２８名（３３．４%）であり，女性の方が口に対する関心が高いようでした.

質問に対する回答は以下のようでした.

Q1.「歯医者さん」というと，どんなイメージが浮かびますか？

a.怖い　15.6%　b.痛い　38.7%

c.高い　12.7%　d.やさしい　11.7%

e.たのもしい　8.9%　d.その他　5.1%

怖い，痛いなどマイナスのイメージの強い事が伺われました.

Q2.歯医者さんに行くのはどんな時です

か？

a. 定期的なチェック 25.7% b. ちょっとしたとき 17.4% c.痛くてたまらないとき 49.3% d.絶対行きたくない 2.0% e.その他 1.9%

半数の方が痛い時しか歯科医院には行かないという実態が分かりました．その反面，1/4の方が定期的なチェックをしており，勧め方によっては定期検査を定着させることが出来ように思えます．

Q3．あなたが歯科健診を前回受けたのはいつですか？

3ヶ月以内 24.2% 半年以内 15.6% 1年以内 22.0% 1ー3年未満 13.1% 3年以上前 17%

Q4.健診を受けた動機は？

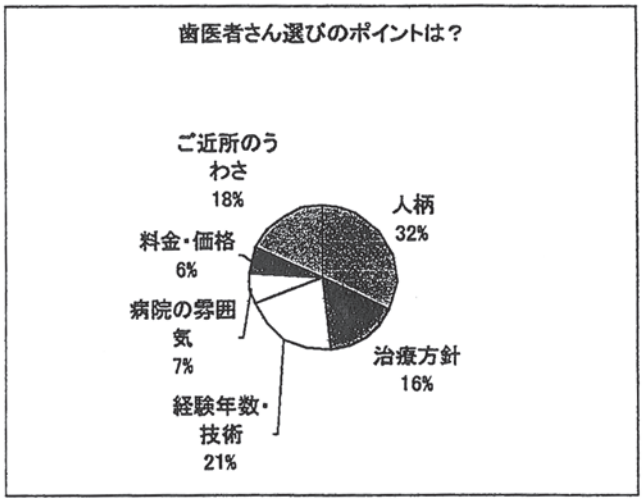
a. 自分から 45.8% b.会社や学校の健診 10.2% c.治療のついでに 33.5% d.その他 6.5%

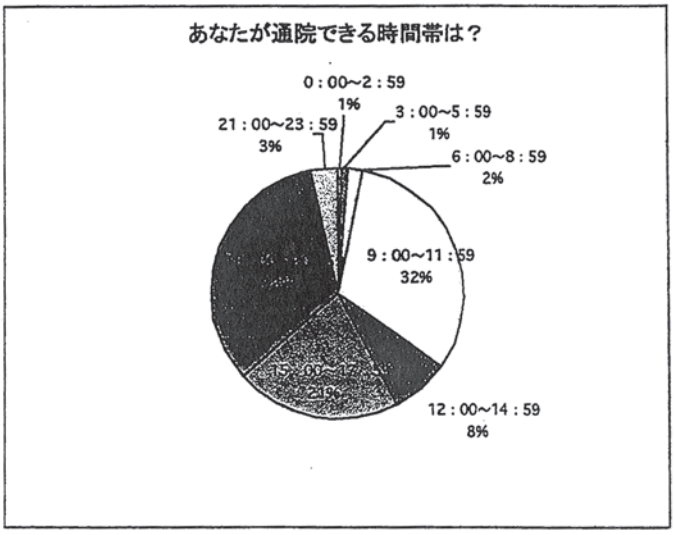
Q4 から歯科健診を自発的に受ける方と受動的に受ける方が半々でした．

Q５．歯の健康のために行っていることは何ですか？

ほぼ全員の方がブラッシングを記載しています．小・中学校でブラッシングの大切さはきちんと周知されており，習慣付けられていることが伺われます．また，フロスや定期検査と記載した方は２割程度でした．ブラッシングで口の中をすべてきれいにすることが難しいため，今後は補助器具の活用や定期検査の際の専門家による歯間研磨の重要性を啓発していく必要性があります．

「街角インタビューの結果」





52

今回のイベントの目的であるサンプル数を多く集めることは達成できたと思います．不特定多数の方々から様々な意見を聞くことは非常に参考になりました．今後はこれらのデータを分析し，はーもにープロジェクトの更なる活動に生かして行きたいと思います．

企業と連携した住民・従業員参加型歯科保健活動

新潟大学歯学部　大内章嗣

１．はじめに

「はーもにープロジェクト」スタート２年目にあたる平成 16 年度から取り組んだ「企業と連携した住民・従業員参加型歯科保健活動」についてご紹介したいと思います。

この取り組みで連携した企業とは、新潟県内では有数の大企業である（株）北越製紙新潟工場です。北越製紙というと平成１８年７月に製紙業界再大手の王子製紙が敵対的ＴＯＢ（株式公開買い付け）による買収を仕掛け、失敗に終わったことがマスコミでも大きく取り上げられていましたので、ご存じの方も多いと思います。

北越製紙は新潟県長岡市で 1907 年に創業した洋紙、板紙、特殊紙を中心とした業界第５位の総合製紙メーカーです。新潟工場は環境に配慮した最新鋭の設備を誇る北越製紙の主力工場であり、印刷・情報用紙の生産としては国内最大規模の工場でもあります（写真１）。新潟工場の従業員数は約 520 人、生産支援、廃水処理、輸送などの関連グループ企業も含めると約 1,500 人にのぼります。

２．繋がりは小さなきっかけから

北越製紙と連携した取り組みを始めることになったのは、同工場の総務課長さんが社会保険事務所主催の会議で、はーもにープロジェクトのメンバーでもある新潟県歯科医師会の佐藤徹先生と同席し、同工場従業員を対象に歯の健康に関する講話をしてもらえないだろうかと相談したのが発端でした。

その背景には製紙工場という性質上、４組３交代の 24 時間操業体制を組んでいるため、日頃から従業員の健康管理には大きな関心を払っていたこと、また、新潟工場のような生産現場では 24 時間操業するために生産設備の予防保全（修理が必要になる前に適切なメインテナンスを施していく）という考え方が徹底されていることもあり、歯周病などの生活習慣病の１次予防の重要性についても十分理解されていることなどがあったようです。

３．周辺住民を対象とした体験型健康学習会の開催

袖振れ合うも多生の縁ということで、佐藤先生とともに総務課長さんを訪ねて色々とお話しを伺ってみると、新潟工場は新潟市市街中心地からわずか 1.6Ｋｍという全国でも例のない立地条件を有しており、今でこそほとんど問題はなくなったものの、昔は製紙過程で生ずる臭気や水質汚濁、ボイラーの煤煙等による公害問題があり、周辺住民を招いての工場見学会や児童ポスターコンクールの開催など、古くから周辺住民との円滑な関係づくりには多大な努力を払ってきているとのことでした。

こうしたことから、単なる企業活動・ＰＲの延長線上ではなく、企業が地域住民の健康づくり（健康なまちづくり）活動のファシリテーターとして参加・協力していくことが、企業と地域住民との新たな関係づくりに繋がるのではないかと、地域住民を招いた健康学習会を新潟工場内で開催することを提案したところ、すぐに工場長さんの了解が得られ、「はーもにープロジェクト」の進める住民参加型活動への協力が得られることとなりました。

北越製紙新潟工場から周辺地域の自治会等を通じて、チラシの配布等を行ってもらい、平成１７年３月１２日に新潟工場内の講堂において、体験型の住民健康学習会を開催しました。（写真２・３）単なる講演会にしたくはないということで、サブテーマを　「体験してみよう　お口の健康を守るためのアレコレ」として、「８０２０クイズ」、「むし歯のなりやすさ測定（う蝕活動性試験）」、「気になるお口のニオイ測定（口臭測定）」、「見てみよう！お口のバイ菌（位相差顕微鏡）」、「やってみよう！お口の体操（健口体操）」、「お口の健康グッズ・あれこれ（歯科保健相談）」など、多数のブースを設置し、そのなかを自由に回って頂く形としました。（写真４・５・６）

当日は８０名を超える周辺住民の方や、勤務明けの従業員の方の参加があり、参加者アンケートからは「大変有意義であった」、「今後も参加したい」との声が多くきかれ、参加された町内会長さんからは「大変ためになった。こんな機会があれば、次回からはもっと多くの人が参加するよう誘いたい。」との感想も頂きました。

４．歯の健康に関する従業員アンケートの実施と今後

健康学習会に少なからず従業員の方が参加し、高い関心を示していたことから、翌年度には、従業員自身の歯の健康に関する実態やニーズはどうなっているのだろうということで、新潟工場全従業員 519 人を対象にした歯の健康に関するアンケート調査（回収率 80.4%）を実施しました。

その結果、歯痛や歯ぐきの腫れ、口臭等６項目の自覚症状について尋ねたところ、「いつも」「しばしば」「時々」の回答を合わせた割合は「歯の間にものがつまる」で 88%、次いで「歯が痛んだり、しみたりした」で 59%に達していること、こうした口の中の問題によって「悩んだことがある」者も、「いつも」「しばしば」「時々」の回答を合わせて 30%いることなどが明かになりました。

また、口腔の健康が自身の今後の健康のためにどれほど重要であるかという問いについて、大変重要（１）から全く重要でない（６）までを 6 段階で評価した場合、大変重要と答えたものは 48%に達し（ 図2 ）、新潟工場の従業員の皆さんにとって口腔の病気が、普遍的で身近な問題であるとともに、高い関心のある課題であることが明らかになりました。

加えて、「今後、あったら良いと思われる歯科保健事業」に関する設問では、一番多かったのが「職場での定期的な歯科検診」で ６１%と、他の選択肢の 2 倍以上でした。それ以外では「歯の磨き方などお口の健康に関するパンフレットの配布」（28%）、「口臭予防や歯周病の予防に関する学習会や相談・指導の開催」(25%)、「職場で歯科医師や歯科衛生から相談・指導が受けられる」（23%）となっており、自身の口腔の問題に直接関連した事業への関心が特に高いことが伺われました。

こうした結果には総務課長さんも高い関心を示されており、今後、企業の従業員・家族への健康管理・健康増進活動と、企業の地域貢献活動、そして地域住民の健康づくり・まちづくり活動がうまく一体となった効果的な活動へと展開していける効果的な方法について検討しているところです。

● 写真１　北越製紙新潟工場



● 図１　配布した健康学習会のチラシ

●写真２　健康学習会

●写真３　参加された周辺住民の皆さん

●写真４　気になるお口のニオイ測定（口臭測定）

●写真５　やってみよう！お口の体操（健口体操）

●写真６　お口の健康グッズ・あれこれ（歯科保健相談）

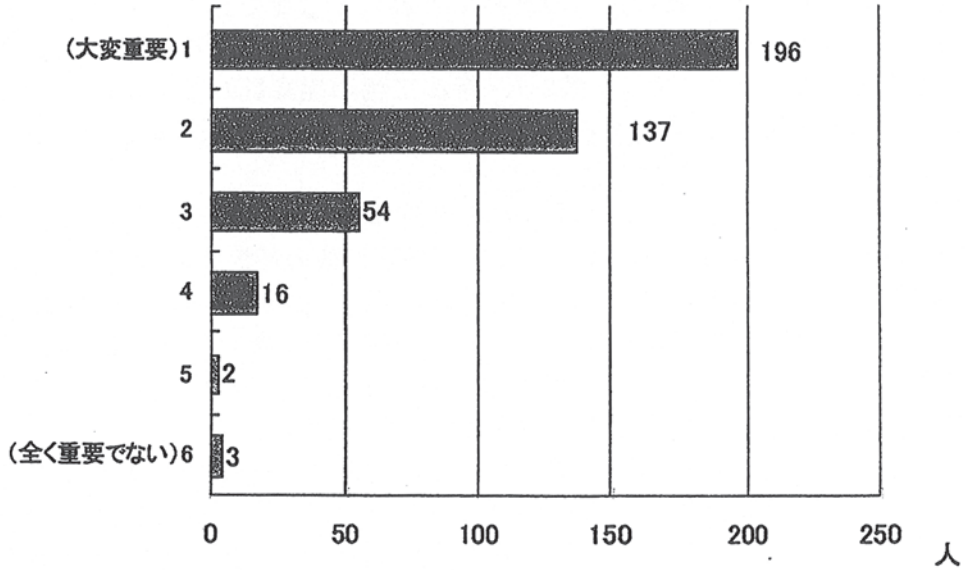


図２　自分の歯を保ち、お口の健康を守ることは、あなたのこれからの健康的な生活のためにどのくらい重要だと思いますか。

まなび屋　ー子供たちとの交流ー

新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野　濃野　要

○なぜ子供との交流が必要か？

地域歯科保健を考えるにあたり、対象となる病気は「むし歯」と「歯周病」です。このうち、「むし歯」の予防は、歯の生えてくる（生え変わる）子供の時期が一番重要になります。言い換えると、この生え変わりの頃が一番むし歯になりやすい時期であるということです。しかし、子供たちにとっての歯医者さんは、経験や周囲から得た知識や、知らないものへの恐怖で、敷居の高いものであるようです。そして、ようやく治療に行っても、同じような理由で嫌がってしまい、十分な治療を受けられないことがあります。また、専門家と接する機会が少なくなることは適切なむし歯の予防方法を知る機会も少なくなってしまうことも意味します。

そこで我々は、予防知識の普及を図るだけではなく、高くなっている敷居を少しでも下げることを目的に、歯科医療関係者と子供たちが、歯科医院や学校以外で直接触れ合うことができないかと考えました。

○まなび屋

今回、「まなび屋」というフリースクールにご協力いただきました。（＊まなび屋は、大学・公民館（地域）の学社連携によるフリースクールです。この活動は幅広い視野から教育を捉え、参加者に異世代交流・多様な体験の場を提供すると同時に、学生の教育実践の場として機能することを目的としています。）まなび屋では教育を学ぶ大学生が、子供たちと一緒になって活動しています。この活動のひとつに「まなびの時間」という、様々なテーマについて子供たちと対話をしながら学習していく時間があります。我々は平成 16 年 2 月（第一回）と 12 月（第二回）の二回にわたり、そのまなびの時間に参加させていただきました。**（fig1：以降赤字は対応 fig）**

まなびの時間

・歯のはなし（第一回、第二回）**（fig2）**

第一回、第二回ともに、歯の本数や大人の歯と子供の歯の違いなどを写真（実際の写真やレントゲン写真）で紹介し、友達同士で口の中の歯の形や本数を確認してもらいました。第二回ではその後に、歯医者さんにいったことがある子供にそのときの様子を発表してもらいました。通院経験のある子は我先にと話し始め、「最初は痛かったけど、すぐに大丈夫になった」、「ぜんぜん痛くなかった」、「薬を塗るだけだから平気」など、皆一様に

自分は大丈夫だったと話してくれました。また、そのうちの何人かは、自分のむし歯は何本で、どこを治療して、どこを磨いたらいいか流暢に話してくれました。

一通り発表が終わった後に、どうしてむし歯になるのか説明を行いました。それを基にむし歯を予防するにはどうしたら良いかを発表してもらいました。自分たちで考えながら自分たちでできる予防方法を話し合いました。

・かむ力を測ってみよう（第一回）**(fig3)**

子供たちとの交流では、体験学習を行うことが効果的であるとのことで、かむことによって色の変わる米を用いて、自分のかむ力がどのくらいなのかを見てもらいました。むし歯や治療の有無でかむ力がどれくらい違うのか、友達と見せ合いました。もっとも、乳歯と永久歯の生え変わりの時期ですので、そちらの影響も大きかったと思います。

・保護者インタビュー（第一回）**(fig4)**

「歯の相談コーナー」と題して見学にいらっしゃっている保護者の方々とお話をする機会を作り、お子さんのことに限らず口の中のことについて自由に意見交換をしました。積極的に話をしてくれる方が多く、日頃歯科医院では聞きにくいことや歯科医への要望などを中心に話し合いました。熱気ある場となり、まなびの時間が終わっても話し続けてしまいました。

・自分でおやつを選んでみよう（第二回）**(fig５、fig6,7,8：6,7,8 はまとめて配置してください)**

チョコレート、ビスケット、おせんべい、さきいかの中から二つ、緑茶、オレンジジュース、スポーツドリンクの中から一つ、好きなものを選んで、自分のおやつとしました。（fig５）その後、自分で選んだおやつがむし歯になりやすいかどうかチェックしてもらいました。（fig６）先に配ったおやつにそれぞれに点数をつけて（たとえばチョコは 4 点、ジュースは 4 点、おせんべいは１点など）、その点数の合計で判定しました。その後、どんな組み合わせだとおいしく、むし歯になりにくいかをみんなで考えました。この時間が一番子供たちと触れ合うことのできた時間でした。

最後にキシリトールガムを全員に配布し、食べてもらいました。もちろん、本来であればやってほしい食後の歯磨きについてもお話しました。

まなびの時間を終えて（fig9）

まなびの時間のあとの反省会では表１にあるような意見が出されました（第一回）。今回は大学生も子供たちと一緒に聞き手になっていただきましたが、彼らははーもにープロジェクトが本来対象としている成人であるのはもちろんのこと、子供たちの教育を担う人材でもあます。そんな彼らが少しでも口の健康に興味を持ち、我々の活動を知ってくれた

とすれば、近い将来のために非常に有意義であったと思います。

○さいごに。

はーもにープロジェクトにおける子供たちとの交流の一番の目的は、将来の大人たちに「種をまく」ことにあります。子供の頃から口の健康を意識することで、歯科医院に足を運ぶのを億劫がらない、嫌がらない。定期的に健診に行って口の健康を守るのがあたりまえ。こんな考えを持った大人になってもらうための「種」をこれからもまいていければと思っています。

新潟市大江山地区における、自治会歯科保健活動

新潟市大江山地区は新潟市の南部の周辺部に位置し、主として産業は、農業で住宅は閑散として長い距離にまばらに分散しています。

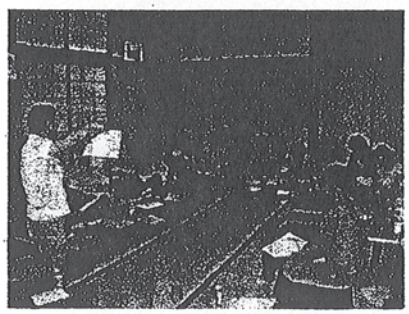
世帯数は、二、一二五戸、人口は七、三一七名　男性三、五三三名、女性三、八〇七名で比較的年齢層の高い地域です。(平成十八年十月一日現在)

以前より環境として医療施設が乏しく、医療機関へは周辺の他地区へ受診していましたが、近年は同地区にも医療施設ができて受診も容易になってきました。

保健活動、特に歯科保健活動は低調で住民の予防意識も薄かったようです

新潟市保健所による平成十二年から十四年度の一才半、三歳児健康診査におけるむし歯の罹患率が他二十余地区の中で上位を占め平成十六年度より、歯科保健重点地域に指定され、

自治会、行政(保健所)、歯科医師会が連携して歯科保険事業を推進することになりました。



ここで一番重要な事は、自治会が予算付けをしたところです。予算付けにより自治会員である住民の意識の高まりが歯科保健活動を積極的に進める事ができるだけでなく今後の地域起こしを担えるようになればいいと思います。幸い地区のほぼ中心に農業改善センターがあり、コミュニティーの核となる施設も活用できそうです。

平成十六年度の活動

活動初年度はまず、歯科保険事業の関係者会議を開催し、自治会、保育園、学校関係者、学校歯科医、保育園嘱託医、行政の歯科保健担当等により、歯科保健に対する共通認識の確認をし、

情報、意見の交換を行いました。

その中で地域の人たちはむし歯の予防、歯科保健に対してどんなことを求めているのか、地域の特性や食環境等むし歯が多い原因は何なのか、どのようにすればむし歯が減少し、地域のことが課題として上がりました。

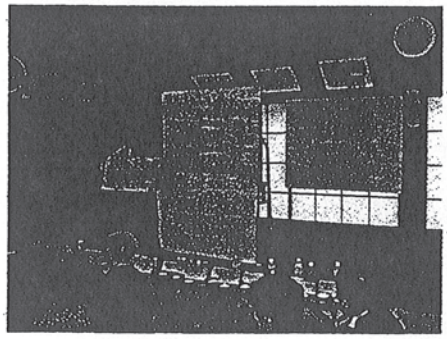
また、この地区の三保育園共むし歯罹患率が高く、予防としてのフッ素洗口を前向きに検討することとなりました。

平成十七年度の活動

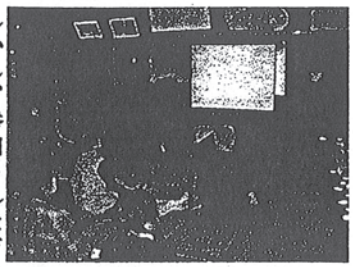
次年度、三保育園でのフッ素洗口が実施されました。実施率はどの園でも九十パーセント以上と高くなっています。

そして地域の人たちの意見、要望を探るため二回にわけグループディスカッションを実施しました。

母親グループ、祖父母グループに別れ歯科保健意識の向上について活発な議論が交わされました。その中でむし歯予防の大切さはわかっているが詳しい知識がないため、講演会等を開催して正しい知識を身につけることが必要だという意見でまとまりました。参加された方はグループディスカッションが初体験で戸惑いながらも一生懸命に意見を出してくれました。二グループに分かれたことで、母親、祖父母それぞれが言いにくい事も、引き出せたようです。



年度末になり自治会予算により「健口学びの会」と題して、楽しく歯科保健の知識が身につくようにクイズ形式での講演会を母親、祖父母対象に各々二回ずつ実施しました。しかし参加者は、ピーアール不足のためか十名程度で参加者ゼロの会もありました。要望としては、勉強会を開いて欲しいのに参加者の少ない事は地区の回覧や学校、園を通して周知しても地域の特性なのか、また情報伝達に問題があるのか苦慮しました。

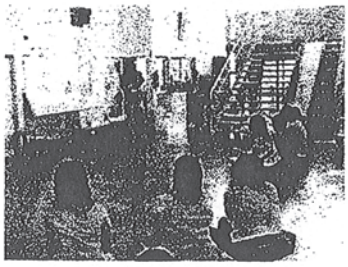


しかし、参加された方たちからは是非とも続けて欲しいと要望があり、非常に嬉しく思いました。

そして次年度へつなげるべく、より多くの人たちに歯科保健について考えてもらえるような企画を関係者会議で話し合いました。

平成十八年度の活動

三年度目は地区三保育園の園児、保護者を対象とした講演を歯科医師及び歯科衛生士により実施しました。フッ素洗口二年目でもあり各保育園共半数以上の方が出席し砂糖を多く含む飲み物や食品についての説明や歯磨きのしかた、むし歯の予防法について熱心に聞かれていました。この講演の費用も自治会の予算付けによるものです。

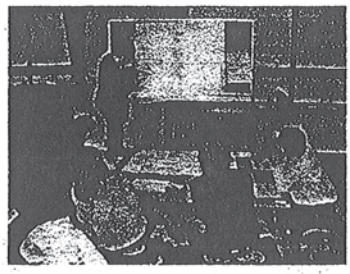


もうひとつ十八年度で新しい動きは一部の集落で歯科保健の講演の依頼があったこと、そして地域で活動しているママさんバレーチームより子供たちの口の健康について話し合いを持ちたいとの企画がありその集会に出席しました。どちらの会も気心の知れた同士なのかたくさんの疑問や、問題点が述べられました。

年度の総括として地区の人たちの意見集約を図るため二回目のグループディスカッションを二日に分けて実施しました。

母親、祖父母、ママさんバレーの三グループに別れ一日目は前年度の講演会で参加者が少なかったかについて話し合いました。開催時期や開催時間の悪さ、宣伝不足、参加者に対する景品などのメリットがあげられ、みんなが興味を持つようなテーマであれば参加しやすいということになりました。二日目には地域のみんながお口の健康を身に付けるにはどうしたらいいのかについて話合いました。

このテーマは参加者には難しかったようですが各グループとも口の健康のみならず体の健康についての知識を楽しめるような企画があれば参加したいとのことです。



三年間の活動を振り返って

新潟市大江山地区の自治会が予算付けをして歯科保健活動が実施できたこと自体画期的なことだと思います。

歯科医師が地域に入って活動することが以前は非常に難しかったのですが活動をしてみると以外に楽しいことも多いのでやりがいのあることがわかりました。地域の人たちもこの活動がようやく周知されたように感じます。

関連団体との連携もこの活動でうまく取れるようになってきました。

今後の活動について

新潟市は平成十九年度より区政が敷かれ大江山地区は他地区と合併し江南区の一部となります。平成十九年度以降も自治会の予算付けは不明ですが江南区の他の地区にこの活動が波及し活発になることを期待します。さらには新潟市の全区、新潟県全体に地域おこしの波が広がるよう期待します。



町内会、自治会と連携した活動をどう取り組むか

一つの地域コミュニティ協議会（旧地域連合町内会）の組織活動と連携して行った例

各地域において町内会、自治会を核とした地域活動している例は多く、町内会自治会は各々色々な形で取り組みを行い、その地域にあった形で運営、活動していると思います。

ここに一つの地域コミュニティ協議会（旧地域連合町内会）の取り組みの状況を報告します。

この地域は新潟市の東地区に位置し世帯数約千七百世帯、十四町内会、自治会で組織しているコミュニティ協議会組織です。

各町内会、自治会とも子供、若者が少なく中高年層と高齢者層が目立ち、地域では高齢者の一人世帯も多くみられます。

この協議会は理事会組織の下に五専門部会（体育文化部、青少年部、健康福祉部、安心安全部、環境整備部）があり各専門部では年間計画を立てそれぞれ住民をまじえ活動をしています。

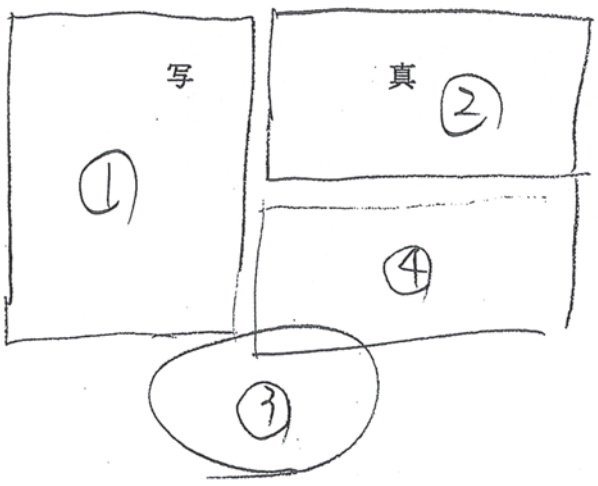
健康福祉部では日赤、地区社会福祉協議会、老人クラブ、ふれあい給食会の皆さんが所属し活動しています。

この地域の皆さんに「食と歯、歯と健康」について話を聞いてもらうにはどうしたら良いか、健康福祉部の中でふれあい三世代交流会や、高齢者ふれあい給食を行い活躍している、「ふれあい給食会」というボランテアグループに話をしました。

このグループは地域の日赤委員や、民生委員、地域協力者が参加し五十才から七十才台を中心に五十名程で組織されています。

「ふれあい給食会」では十数年前から月一回地域の公民館の施設「調理室」を使い昼食を作り、お年寄りの希望者にお弁当を自宅まで配達して、おいしく食べていただくと同時にお年よりと接触し会話を通じて交流し、生活の様子を知ることも目的としています。

又、災害時には給食班、給水班も担当する役目を持っています。



このようなグループですので今回、地域の皆さんに「食と歯、歯と健康」について話を聞いてもらうには適当ではないかと話を進めました。

はあーもにープロジェクトの「歯と健康の体験学習会」の企画をふれあい給食会のグループに話し協力をお願いすると共に地域の人達にもこの企画を知って参加してもらうために地域コミュニティ協議会会長の理解を得て、健康福祉部の活動の一つとして行ってもらうことになり、地域コミュニティ協議会と共催で実施することになりました。

町内会、自治会の回覧用パンフレットをはあーもにープロジェクトにお願いし十四自治会、町内会百五十班分の回覧を作ってもらい各班に配布しました。

真写のAフン パ

「歯と健康の体験学習」の紹介

歯と健康の体験学習会は地域内の公民館の研修室を利用しました。

当日五十名程の人達が集まり、ふれあい給食にたずさわる人達を中心に地域の人が参加され、参加者はどちらかと言うと年配者が多数をしめました。

参加者を三つのグループに別れてもらうに、アンケートゲームを行い「歯のことで気になっていること、関心のあること」を記入してもらいました。グループごとに別れて「お口のケアの重要性について」の話を聞き、体験ワークショップで

- 口腔ケア体操
- シリコンパテ
- 口腔潤滑材
- 虫歯になり易さを試験紙を使いチェック
- 介護食の試食
- ブラッシングの指導

等を体験し、出席された歯科医師、歯科衛生士の先生方から話しを聞き説明を受けました。

その後「地域の歯科医さんをもっと活用しよう」で歯科医医師、歯科衛生士さんと意見交換を行いました。参加された皆さんは日ごろから食事をおいしく食べることの大切さを考えておる人達で口腔について大変関心がある様子でした。

真写 景風 習学 験体

順番にでも年間計画として取り上げるよう働きかけたい。

体験学習会はただ歯科医師の話を聞くだけではなく

- 口腔ケア体操
- シリコンパテ
- 口腔潤滑材
- 虫歯になり易さを試験紙を使いチェック
- 介護食の試食
- ブラッシングの指導

等が盛り込まれていて理解しやすいところが参加者によかったので是非このような企画をお願いしたい。

今後、体験学習会を行うには資金的な裏づけが必要ですので市行政、歯科医師会、地域協議会関係者間の話し合いや、調整が必要かと思われます。

ほかの地域へもこのような企画を広く進めるには市歯科保健行政等の指導や地域コミュニティ協議会への紹介もお願いしたらいかがかと考えます。

真写習学験体

もっと地域住民の方に「食と歯、歯の健康」について関心を広めるためにどうすれば良いか、この地域は組織作りが出来ているのでもっと専門部会で「食と歯、歯の健康」についての体験学習を専門部毎に活動の一環として取り組めないか、

（静岡県における住民参加型歯科保健活動）

歯科が拓く地域の健康

――静岡県における８０２０運動の地域展開について――

静岡県歯科医師会
会長　飯嶋　理

＜はじめに＞

８０２０運動は、口腔の健康が人の生業に必須のものであることを多面的に実証する、優れた生活文化運動であると位置づけられます。特に授乳期からの食育支援に始まり、学校教育への関わり、成人の多くが罹患する生活習慣病や、高齢期の口腔ケアの重要性、さらに視点を広げた食文化の継承の問題等についても、８０２０運動は「２１世紀における国民の健康づくり」に向けて豊かな可能性を示しています。

しかし、地域で具体的に誰が、誰に対して、どのように８０２０運動を展開していくか、という実践面では未解決の部分が多く残されています。最大の問題点はこれまで歯科医師会及び会員が行ってきた、不特定多数を対象とする公衆衛生活動が、口腔の健康を認知した地域住民の行動変容や、会員診療所の機能強化に資することができたかという検証が十分なされていないことです。このことが企画者をして本冊子を上梓する契機となったと拝察し、静岡県県歯科医師会が本年３月に纏めた標題の冊子から抜粋の形で責務を果たしたいと思います。

１．静岡県における８０２０運動推進についての課題

１）ＥＢＭに基づく８０２０運動の展開

口腔機能を確保することの重要性が認識されるようになり、歯を残すことが健康寿命の延伸に寄与することが、平成８年から始まった一連の厚生科学研究により証明されてきました（伝承から科学へ）。

本県においても、地域診断――→実行――→評価（Plan Do See）の手法が導入した取り組みが意識されるようになりました。平成１０年に節目年齢（３０，４０，５０，６０歳）の１４，８００人を対象とした“静岡県成人歯科調査”を行いました。同調査は歯周病に着目するとともに、７４市町村の歯科保健の取り組み状況を検証（地域診断）した画期的な調査でした。

平成１２年からスタートした８０２０運動推進特別事業（国の１０分の１０助成事業）は、このノウハウを基にして、本県では食育関係業種、有識者、行政、県歯、郡市歯会代表とで構成される“８０２０健康静岡２１推進会議”により、住民参加型の地域歯科保健活動への道筋を切り開きました。住民自らが口腔を通した健康づくりに関わるためには、身近なところでかかりつけ歯科医の支援が必要になります。しかし住民と会員診療所を直接に結ぶ手だてがまだ弱いのが実情です。このことに着目して、両者の架け橋となる“８０２０推進員”の養成が行われ、６年間で４４１４名の８０

２０推進員が誕生し、地域保健活動の中で口腔の健康を通した心身の健康づくりのための活動を開始しています。このような周辺からの活動に対して、地域最前線の会員診療所がどう関わっていくのか、また郡市歯科医師会がどのように会員診療所を支援していくかという機能の確保が大切になります。こうした体制づくりは、１８年６月に成立した医療法関連法案と健康保険法の一部改定によって生じる、今後の流動的な状況に対応するための必要条件になるものです。

２）８０２０推進ステーションの設置

８０２０運動を通して地域の健康度を向上させるための、“１次予防を担う住民・活動的住民、行政、食関連職種、専門団体等で構成される合議対の進める健康づくり機構”です。地域保健活動の拠点(人の輪)で、人的連携が生み出す機能を意味します。

① 中央８０２０推進ステーション

静岡県歯科医師会を事務局とする合議体で、“しずおか健康創造２１アクションプラン”を具体化するための戦略会議で、市町のステーション機能を補完する。

② 市町８０２０推進ステーション

市町単位で地域保健活動の中に歯科保健・医療・福祉活動を組み込み、関係者と共同で具体的な地域活動を行う。

③ ２次保健医療圏域もしくは市町合併に伴う広域的な展開に対応するもので、中央ステーションが関係領域に諮って支援する。

④ ８０２０推進診療所機能

郡市歯科医師会の行う公的活動（１次予防）を支援し、かかりつけ歯科医として２次、３次予防を行ない、近隣の医科、薬局、関係職種、行政等と連携し、全人的な医療を提供する会員診療所をいう。治療と保健のバランスをとり、病診、診診、薬診連携の中で住民・患者で賑わう地域資源としての位置づけが欲しい。

２．本県における住民参加型地域歯科保健活動の支援体制と実践例について

“地域社会・地域住民から尊敬され、感謝される歯科医師会、歯科医師であれ”ということが私たちの本分であり、そのために私たちが考えを深くし、必要に応じてシステムを再構築していかなければなりません。

県内の地域歯科保健推進構想（ステーション構想）は、歯科対策の現場である市町を県･県歯会が支援するために、レベル１、レベル２、レベル３の３層構造が必要です。

① レベル１：地域で自律した歯科保健の推進体制（システム、人材、財源）

支援形態――県・全市町連携歯科ネットワークの構築、
住民参加型システムの推奨
人材育成、事業費補助

② レベル２：歯科対策事業の展開（各種具体策、計画）

支援形態――モデル事業・計画・８０２０の里づくり

③ レベル３：健康の向上（口腔の健康度、口腔と関係する全身の健康度）

支援形態――各種データの収集・整理・提供

こうした観点からすでに作動している事業を検証したいと思います。

1）静岡県歯科保健トップセミナーの開催

地域における近未来の歯科の役割や可能性、そしてそれぞれの機能については、市町単位の大きな枠組みの中に歯科施策を位置づけることにより進展が見られるものと考えます。この見地に基づき 18 年度はこれまで実施してきた各市町における、行政・郡市歯会担当者で構成される“地域歯科保健連絡会”の組織を強化する事業を実施しました。

その内容は、県内４２箇所全ての市町の市長・町長・教育長と“歯科保健対策推進のための『８０２０推進ステーション』設置”に向けて、セミナー形式で意見交換を行うという、壮大かつ積極的なものでした。私たちにはこうした活動を支える十分な根拠と実績があり、自信を持って歯科からの提案を行いました。

事業自体は県庁からの委託であり、セミナーは県技監、県歯、郡市歯、市長・教育長・歯科保健担当者が面会日時を確保して実施しました。日程の大半を消化した時点での感触は非常に良好で、歯科保健会議設置に動いているところが出ています。またすでに三島市は“食育宣言都市”、沼津市は“歯の健康都市”を志向しているし、伊豆の国市は歯周病対策を条例化して住民主導の活動を開始しています。次年度は地域の特色を生かした“歯科健康を通した地域の健康づくり”を、住民参加によって多くの市町で具体化していきたいと考えています。

2）伊豆の国市の歯周病対策事業

平成１７年４月に伊豆の国市は、韮山町、大仁町、伊豆長岡町の３町が合併して誕生した。旧大仁町は町の事業としてフッ素洗口や無料成人歯科健診を実施する等、住民の健康に施策として取り組んできた実績がある地域です。平成１４年１１月に“大仁町いきいきライフプラン策定ワークショップ・アドバイザー会議”で、県から歯周病対策が提示され、平成１５年４月に同町保健センターが歯周病対策に積極的姿勢を示しました。１１月に第１回大仁町歯周病対策プロジェクト会議開催、地域診断に向けて住民アンケートの実施を決定しました。地元の歯科医師会の全面的な協力により、ミニ講演会を各地で実施し、合わせて県歯会が歯周病予防管理研修コースを設営しました。平成 16 年 1 月に町が町民対象の歯周病予防講演会を開催し、ベースラインデータのために、住民・企業にアンケートを実施し、その評価にしたがって、フォーカスグループインタビューを実施しました。また定期的にプロジェクト会議を行なう中で、８０２０推進員（町保健委員会）が自主活動として歯磨き体操“歯ミング体操”を考案し、以後各地域での催しで実演するようになりました。

平成１７年 4 月に伊豆の国市が誕生（望月旧大仁町長が市長に就任）し、6 月に市条例として“伊豆の国市歯周病対策委員会”が全議員賛成により成立しました。この

歯周病予防対策委員会は多様な職種からなる２５人の委員で構成されています。ユニークなこととして企業から４人の委員が出ていますが、伊豆の国市で勤務している間は市民であるという意識を持っていることがあげられます。

１８年度事業は、委員会の下に作業部会を置き、自主的活動の実施、知識・意識・行動の改善のために、住民の自己管理の充実とかかりつけ歯科医院での管理の徹底を図っています。具体的には、行政当局は、各種環境整備と歯周病健診の充実を図り、住民参加型事業を展開し、専門化側は、歯周病管理能力の向上と PMTC 等の実施にあたり歯科衛生士の活用を進め、診療所イメージの刷新を図っているところです。

3）浜松市雄踏町歯周病対策モデル事業

浜名郡雄踏町は人口 14000 人の浜松市に隣接する町でしたが、平成 17 年 7 月に浜松市と合併しました。伊豆の国市がヘルシーシティを造るための一つの突破口として、住民主体で歯周病対策を進めようとしているのに対して、浜松市雄踏町では歯科という専門職が地域の中で歯周病の治療と管理をしながら、住民の意識改革に資する事業に取り組んでいます。

参加する歯科医院の経営形態を歯周病中心にすることは大変な作業ですが、雄踏町の６歯科医院は鶴見大学歯学部の小林教授の指導により、パントモ X 線装置のチェックを受け、規格化をするとともに、標準的な PMTC を実施するための研修を行っています。唾液検査の導入については、国立保健医療科学院の花田部長、野村鶴見大学歯学部講師の指導を受けています。研究計画は次のようになっています。

① 仮説：『歯周疾患はかかりつけ歯科医を持つことによって予防できる』
『歯周疾患は歯間部を清掃することによって予防できる』

② 介入方法：対象 A、B、C の３群間で歯周疾患の改善、維持を比較する。
A：地域の歯科医院への介入群
B：地域住民への介入群（歯間ブラシの普及）
C：介入なしのコントロール群（他地域）

定期的に会合を持ち進展状況のチェックと問題点を検討していますが、現在取り組み中の事業で、結果が得られるまでに時間が必要です。大切に育てていく事業と認識しています。

＜参考文献＞

1）静岡県における歯科保健推進のための基本構想　―素案―（Dレポート２）：歯科保健推進研究会、平成２年２月２０日.

2）静岡県における歯科保健推進のための基本構想　―素案―（Dレポート３）：歯科保健推進研究会、平成２年８月８日.

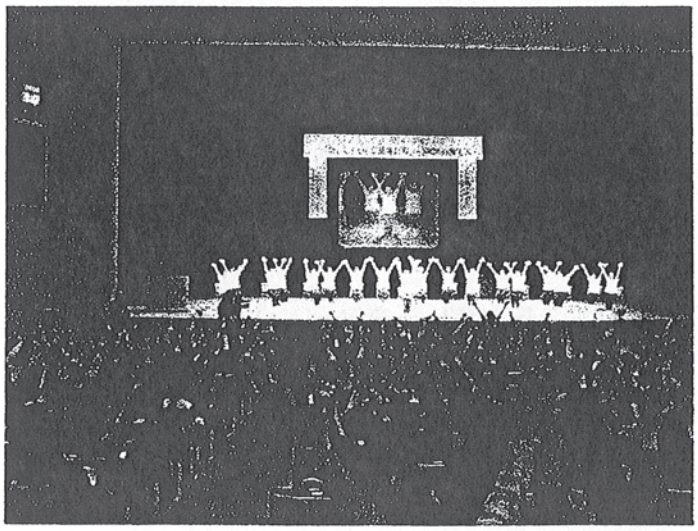
3）静岡県地域歯科保健構想中間報告（Dプラン８０２０）：静岡県歯科医師会公衆衛生部、平成５年３月.

4）よくわかる地域保健のすすめかた：静岡県保健衛生部・静岡県歯科医師会、平成８年４月.

5）しずおかのむし歯と歯周病：静岡県健康福祉部・静岡県歯科医師会・静岡県歯科衛生士会、平成１０年９月.
6）８０２０里づくりの指針：静岡県歯科医師会、平成１４年３月,
7）歯科で生かそう健康増進法：８０２０推進財団編集、医歯薬出版株式会社、‘０３年１１月.
8）８０２０推進員のためのテキスト（平成１３年版、１６年版、静岡県歯科医師会）
9）８０２０里づくりの指針：平成１４年３月、静岡県歯科医師会.



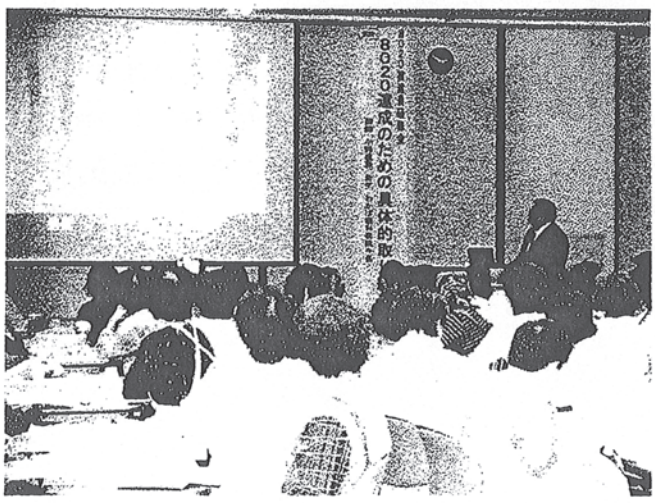
「歯ミング体操」　伊豆の国市 8020 推進員



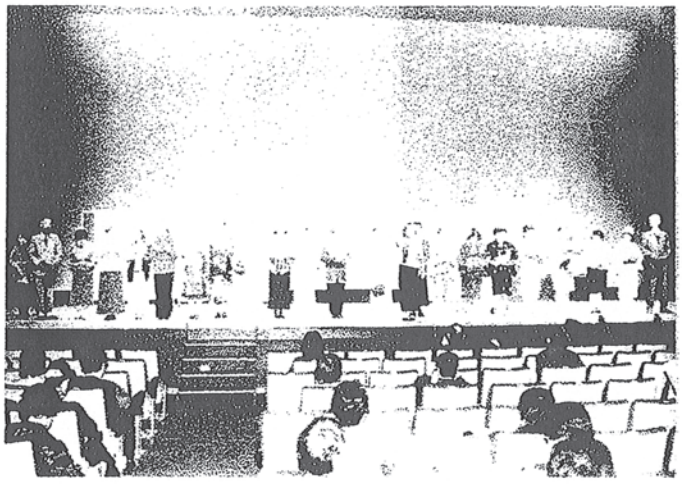
「８０２０サンバ体操」　8020 推進・静岡県大会



「8020 推進員研修会」実技実習



「8020 推進員研修会」講演会



「８０２０寸劇」　三島市 8020 推進員

第６章　地域への波及

はーもにーぷろじぇくとの活動を通じて見えてきた課題には以下の点がありました。

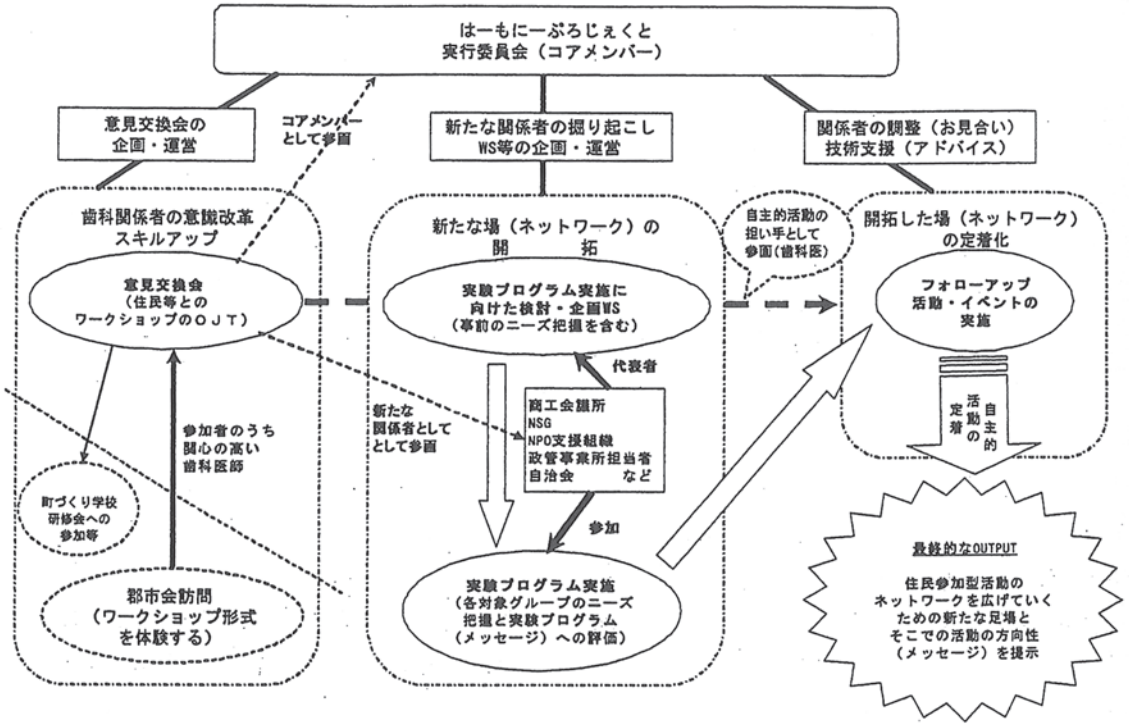
【課題１】歯科側から発信する（している）情報（内容および手段・ツール）が、住民（受け手）側にとって本当に受け入れやすいものになっていないのではないか？
＜＜例＞＞「予防のために定期的に歯科健診を受けましょう」
←「健診」＝「その後に続く治療」（期間＆費用等の負担大）
ならば、痛くなってから行っても同じじゃないの？

【課題２】既存の枠にとらわれない新たな場づくり（ネットワークづくり）が必要
＜＜例＞＞青年会議＝企業経営者（管理職）
←働き盛り年齢の歯科受診率・診療費の高さによる経済的損失に大きな関心

【課題３】歯科関係者自身の住民参加活動に対する意識改革・スキル向上が必要
歯科関係者自身がニュートラルなスタンスでファシリテートできれば最も効果的

私たちは３年間にわたって色々な活動を行ってきました。私たちの活動は、意見交換会や各種実験イベントを通じて新たな関係者の掘り起こし、新たな実施事業を紹介することだと考えています。**最終的なあるべき姿は、各地域での自発的な活動に発展していくことと考えています。**つまり、はーもにーぷろじぇくととしては、関係者の調整や技術支援の後、地域として開拓した場の定着化を図っていただく予定です。

「はーもにーぷろじぇくと」活動のフレームワーク



私たちがこの活動で得たことは、まず、住民の視点で事業を考える必要があることでした。町づくり学校の方を通じて学んだ町づくりの手法をもとに新たな事業をいくつも起こしてきました。その結果、参加された方へのふりかえりシートでは９割以上の方が満足されていました。しかし、住民の方は、事業内容についてとても冷静に、厳しく評価をしていただける反面、熱しやすく冷めやすい傾向が見受けられます。地域への波及を考えたときにはいかに継続性をもって、かつ住民のかたに絶えず興味を持っていただきながらすすめていくかが非常に大きな課題となってきます。当初このはーもにーぷろじぇくとは継続的な組織ではなく、方向性を示すことでその役割を終えると考えていました。しかし、図に示したように、事業が円滑にすすむためにはマネジメントを担当するところが必要と考えます（図●）。従来の事業ではこの部分の担当が市町村行政でした。行政の特色として、実施するまでには結構時間がかかり、あまり重い腰を上げたがりません。

行政の特徴

①人、組織、物、予算を持っている
- 税金の再配分・有効利用については責任を持っている
- 講習衛生施策の第一義的責任は行政にある

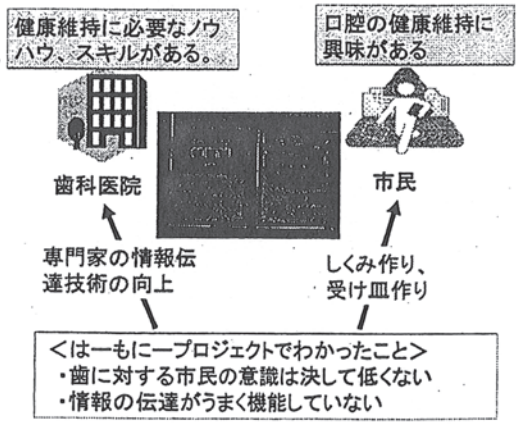
②組織で動くが、人が構成員である
- 事業の発想は人である
- 人は２～３年で移動する

③石橋をたたいても渡らない時がある反面、一度決定したことは守る
・組織は継続性を持っている
・決定するまでには相当の時間を有するが、一旦決定したことは守る
・外部の「圧力」に対してはスクラムで守る
④国の施策には従順
⑤他県の状況に敏感
⑥新規事業はしなければならない
⑦”先生”” 医師会”には弱い
⑧歯科保健事業にはズブの素人

しかし、行った実施が決まったことに対してはよほどのことがない限り中断することはまずありません（図●）。住民参加による歯科保健活動ではフットワークのよさが重要です。旬の時にすぐ動けることが住民の心を掴むことにつながります。この点については行政が最も苦手とする部分です。しかし、一旦流れができた事業について、その継続性を維持する上では行政は大きな力を発揮することがでします。図●に示したような行政の特徴を踏まえる必要があります。

ではどうすればいいでしょうか？

答えは私たちの活動にあると思います。すなわち、はーもにーぷろじぇくとには多くの、一見歯科保健と関係がなさそうな方々がメンバーに入っています。また、行政関係の方もはいっています。さらに、メンバーは固定しておらず、その時々で参加したりしなくなったりとフレキシブルな対応が可能となっています。ハーモニーぷろじぇくとの活動を通して感じることは、住民は歯の健康について結構意識が高いこと、そして、歯科専門家は歯の健康を守る方法を知っていながらそれがうまく伝わっていないこと、です。その背景には、歯科専門家側の課題として、住民の方の意見を十分引き出す、または理解するスキルが劣っていることが関係していると考えています。黙っていては、また数段高いところから見ているだけでは本当の住民の気持ちをとらえることはできないでしょう（図●）。



一方で、住民の特性もとらえておく必要があります。住民は、ますます機能的で、合理的で、すぐ結果が得られて、楽しいことが追求される社会に慣れてきています。きちんと捕まえていないとすぐ逃げてしまいます。一方で歯科専門家側も単発なイベント的な物は実施しますが、それを継続できる人はよほど熱心な方でしょう。やはり最終的には仕組みを作っていく必要があると思います。ここでは、行政的な手法が役に立ちます。行政としての関わりには前述したようにいろいろ難しい面があるのですが、行政メンバーによる行

政的手法の活用によりあまり時間をかけずにマネジメントシステムを作っていくことが可能となってきます。

今後、住民参加型歯科保健活動を地域に根付かせるためのポイントは、住民の視点を取り入れてマネジメントに繋げられる仕組みを作っていくことだと思います。そうすることで、絶えず新しい視点でものを見ることができ、熱しやすく冷めやすい、しかし健康には大変興味のある住民の心をずっと捕まえることが可能だと思います。

住民参加型歯科保健が目指すもの

—将来あるべき理想の姿—

歯科保健活動はどのように進めていけば住民に理解され、健康に寄与出来るのか?歯科医師会の地域保健を担当した方であれば、常に大きな課題として抱えているのではないでしょうか。専門家としての知識や技術を住民に役立てたいが、なかなか理解されない、伝わらないという経験をした人は少なくないと思います。今までの開業医は閉鎖的な診療室でしか住民との接点を持たず、住民の意識や価値観を理解し共有することが難しいかったのだと思います。

そこで、今後の活動のあり方として、新たな歯科保健活動は参加とパートナーシップによるまちづくりの手法を応用した「住民参加型歯科保健活動」として進めてみようということになりました。２００３年度から財団法人８０２０運動推進財団の助成をいただき、NPO 法人まちづくり学校の全面的な協力を得て、全く参考事例のないことばかりを試行錯誤しながら実践を試みてきました。これからの各地での歯科保健活動の一助になればとの思いもあります。また、これから新たに取り組むプロジェクトもあります。一つは新潟県障害者交流センターを核として周辺自治会とボランティア組織、行政、大学、地元歯科医師会等が協働して新たなネットワークのもとでさまざまな歯科保健活動を展開する予定です。二つ目は歯科に関するいろはカルタの作成です。今回本書で紹介した事業はいずれも実験的なものですが、これらの活動が一過性のもので終わってしまっては意味がありません。いかに継続するかが重要であり、そのためには活動する側の利益も不可欠です。それぞれの立場での「経営の要素」は必要であると考えています。また、常に住民のニーズを把握し、継続の意義を検証することも重要です。

「住民参加型歯科保健活動」は企画・立案の段階から出来るだけ専門家が話を聞き、いかに住民の立場になるように意識改革できるか、つまり住民とともに考える発想を持てるかが鍵になります。固定され、限定された意見だけではなく、より多くの目で見ながら聞く耳を持つことも必要です。このようにして住民を巻き込んで実行された事業を住民自らが評価し、歯や口の健康に対して自主的に取り組む動きが盛り上がるように発展させ、「住民主体型歯科保健活動」にしたいものです。

☆新潟の歯科保健何が変わってきたか

09.29

片：現場の声を聴く 継続する大切さ

さ：まだ変わっていない
いろいろな場でこれからも場づくり

柔：作業ない!! 青年団のリノ集
関わってきた
人たちの意識の変化

荒：今は種まきの段階 ---地道に意識を底上げする---> 芽を出せる段階

小：手法を見つけ出す段階

濃：大学教育の中で
ファシリテーション取り出だされている

風：自分自身が変わった

よ：歯科医師が少しずつ変わり新潟市周辺の先生も影響
まだ他の地域との差があるが… → 他地域の歯科医も巻き込んでほしい

小：予防歯科健診優良企業

阿：歯医者さんが身近な存在に…

有：〃の言葉が変わった
ネットワークが広がった

歯科医師会主催 理解してもらう難しさがあった

新潟から全国へ… エネルギー

認識 → 意識変化 → 目に見える変化

今…リハ職も巻き込む!!

育んでいける世代へのコミュニケーションや意識変革をうめていく

会ぎがワークショップ型に変化

歯医者さんのコミュニケーションや考え方の変化

初めはコミュニケーションが成り立っていかなかった

4/14までに 報告書 → 読みものとして修正 → 夏頃 出版!!

119年 活動をふりかえって

073分科会

☆はーもにーをやって得たこと

コミュニケーションのはかた会

片山先生：地域住民に歯科衛生士の仕事を伝える難しさ
会ギのすすめ方

さとう先生：専門家以外との交流あい

多胡原先生：思いと視線の違い、すすめ方のノウハウ

若井先生：関心の高さ

小黒先生：啓もう活動のすすめ方
新しい形

濃野先生：住民会の若との対等な関係づくり

風間先生：意見を聞き、交換

よし原先生：

小田晴さん：名々の得意分野を出し合って新しい動きが生まれた

阿宮さん：コミュニケーションについて新たな気づき

こんなに学びを地域に還元するやり方もあったんだ

歯科衛生士 地域活動の新たなすすめ方のノウハウ

切磋琢磨しながらすすめ

視野が広がった

患者の口を見るだけが、歯医者の仕事じゃない！これからも関わっていきたい！

まなびあいのとくみ

研究をにもっているだけでは、机上の空論だ!!

住民の意識や視点とのギャップ

いかに持続させるかが課題

歯科衛生士の高さに気づいた